

東京大学

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
大問 1					
2013	カリブ海と北アメリカへの人の移動	近世・近代	欧州・北米・中南米	社会・経済	540
2012	英仏の支配と植民地の独立	現代	欧州・南アジア・アフリカ	政治	540
2011	イスラーム文化圏の拡大	中世	西アジア		510
2010	オランダ及びオランダ系の人びとの役割	中世・近世・近代・現代	欧州・北米・東アジア・南アジア	政治・社会・経済・文化	600
2009	近世国家の政治と宗教	近世	欧州・西アジア・東アジア	政治・社会・文化	600
2008	パクス=ブリタニカ	近代	欧州・北米・西アジア・南アジア・東ア	政治・経済	540
2007	農業生産の変化と意義	中世・近世・近代	欧州・東アジア	社会・経済	510
2006	ナショナリズムと戦争	近世・近代・現代	欧州	政治・社会・文化	510
2005	第二次世界大戦とその影響	現代	全地域	政治	510
2004	16-18世紀の世界の一体化	近世	全地域	社会・経済	480
2003	運輸・通信技術の影響	近代・現代	全地域	政治・社会・経済	510
2002	華僑	近代	全地域	政治・社会・経済	450
2001	エジプト史	全時代	西アジア	政治・社会・経済	540
2000	啓蒙思想の歴史的意義	近世	欧州・東アジア	政治・文化	450
1999	イベリア半島の歴史	古代・中世	欧州	政治・文化	450
1998	アメリカ史	近代	北米・中南米	政治・社会・経済	450
1997	第一次世界大戦前後の帝国の解体	近代・現代	欧州・西アジア・東アジア	政治	450
1996	パクス=ブリタニカ	近代・現代	欧州	政治・経済	450
1995	地中海世界の交流と対立	古代・中世	欧州・西アジア	政治・文化	600
1994	モンゴル帝国	中世	西アジア・東アジア	政治・文化	600
1993	分裂国家の展開	現代	欧州・南アジア	政治	600
1992	国際体制の変化と主権国家の拡大	近代・現代	欧州・北米・中南米・南アジア	政治	600
1991	中世から近世の政治体制の変化	中世・近世	欧州・西アジア・南アジア	政治・社会	600
1990	第一次世界大戦後の大衆運動	近代	欧州・東・西・南アジア	政治・社会	600
1989	A 近世から近代の西欧と中国の関係	近世・近代	欧州・東アジア	政治・経済	360
1989	B 近世～近代の中国と欧州の交流	近世・近代	欧州・東アジア	政治・経済・文化	240
大問 2					
2013	1 キリスト教徒迫害の理由	古代	欧州	政治・社会・文化	60

東京大学

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
2013	1b キリスト教の公認	古代	欧州	政治・文化	60
2013	2a 魏晋南北朝時代の仏教普及	古代	東アジア	社会・文化	60
2013	2b 道教の成立	古代	東アジア	政治・文化	60
2013	3a ゲルマン諸国家の王の信仰	古代・中世	欧州	政治・文化	60
2013	3b フランク王国初代王の改宗	古代	欧州	政治・文化	60
2012	1a フンの最盛期とその後	古代	欧州	政治	60
2012	1b 6世紀半ばのユーラシア	古代	西アジア・中央アジア	政治	60
2012	2a マムルーク	中世	西アジア	社会	60
2012	3 武帝の外政	古代	東アジア	政治	60
2011	1a ローマの公共施設	古代	欧州	社会・文化	60
2011	1b ローマ市民権の拡大	古代	欧州	政治・社会	60
2011	2 明清期の対外貿易	近世	東アジア	政治・経済	120
2011	3a モンロー宣言	近代	北米	政治	60
2011	3b 米西戦争後のアメリカの中国政策	近代	北米・東アジア	政治	90
2010	1a 儒学の官学化	古代	東アジア	政治・文化	60
2010	1b 古文復興運動	古代	東アジア	文化	60
2010	2a 朝鮮の文化事業	近世	東アジア	政治・文化	60
2010	2b 徐光啓の活動	近世	欧州・東アジア	文化	60
2010	3a ワッハブ派	近世	西アジア	政治・文化	90
2010	3b インドのヒन्दゥー教改革運動	近代	南アジア	政治・文化	
2010	3c 洋務運動	近代	東アジア	政治・文化	90
2009	1a 集住	古代	欧州	社会	60
2009	1b ギリシア人の同朋意識	古代	欧州	社会・文化	60
2009	2a 殷の統治体制	古代	東アジア	政治	60
2009	2b 春秋時代	古代	東アジア	政治	60
2009	3a 東方貿易	中世	欧州	経済	60
2009	3b ロンバルディア同盟	中世	欧州	政治	60
2008	1 ロシアの対中国南下	近代	東アジア	政治	120
2008	2a ローザンヌ条約と英仏委任統治領	現代	西アジア	政治	60

東京大学

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
2008	2b 第三次中東戦争	現代	西アジア	政治	60
2008	3 アルザスの帰属の変遷	近代・現代	欧州	政治	120
2007	1a 古代オリエントの暦	古代	西アジア	社会	90
2007	1b イスラームの暦	中世	西アジア	社会	60
2007	2a 革命暦とナポレオン	近代	欧州	社会	60
2007	2b ロシア革命と暦	現代	欧州	社会	60
2007	3 元～清の改暦	中世・近世	東アジア	社会	120
2006	1 インドのイスラーム化	中世・近世	南アジア	政治・文化	120
2006	2 インド植民地化の開始	近世	欧州・南アジア	政治・社会・経済	120
2006	3 エジプト近現代史	近代・現代	西アジア	政治	120
2005	1 ガンダーラ美術の特徴	古代	南アジア	文化	90
2005	2 ヘレニズム文明のイスラーム受容	中世	欧州・西アジア	文化	90
2005	3 イスラーム文化の西ヨーロッパ受容	中世	欧州・西アジア	文化	90
2004	1 ユダヤ教の成立	古代	西アジア	宗教・文化	120
2004	2 ビザンツと神聖ローマの宗教と国家	中世	欧州	政治・文化	120
2004	3 カリフ権	中世	西アジア	政治・文化	120
2003	イタリア戦争の背景	中世・近世	欧州	政治・社会	60
2002	5 ムガル帝国の宗教政策	近世	南アジア	政治・文化	90
2002	6 オスマン帝国の異教徒処遇制度	近世	西アジア	政治・社会・文化	60
2002	8 ジャーギール制とティマール制	近世	西アジア・南アジア	政治・社会	60
2001	1 日本の国際連盟脱退	現代	欧州・東アジア	政治	60
2001	5 第一次中東戦争（パレスティナ戦争）	現代	西アジア	政治・社会	60
1999	1 ヨーロッパ勢力の世界進出とヨーロッパ社会の変化	近世	欧州	社会・経済	90
1999	4 近代のインドの貿易	近代	南アジア	政治・経済	120
1999	7 台湾支配の変遷	近世	東アジア	政治	90
1998	2 叙任権闘争	中世	欧州	政治・文化	60
1998	5 スーフィズム	中世	西アジア	社会・文化	60
1997	1 古代ギリシア	古代	欧州	社会・経済・文化	150
1997	2 イスラームの盛衰	中世	西アジア	政治・経済	90

東京大学

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
1997	6 マラッカ王国	近世	南アジア	政治・経済	90
1996	2 スペインの新大陸支配	近世	中南米	社会・文化	90
1996	5 典礼問題	近世	東アジア	社会・文化	90
1995	A 清朝と東トルキスタン	近世	中央アジア	政治・文化	90
1995	B 朝鮮・琉球と日本の関係変化	近代	東アジア	政治	120
1995	C 近現代のベンガル	近代・現代	南アジア	政治・社会・経済・文化	120
1994	A イギリス農業革命	近世・近代	欧州	社会・経済	90
1994	B ロシア近代農業改革	近代・現代	欧州	政治・社会	150
1994	C 大躍進までの中国農村政策	現代	東アジア	政治・経済	90
1993	A 宗教的少数派と中央権力の関係	中世	西アジア	政治・文化	120
1993	B 宗教的少数派と中央権力の関係	近世	欧州	政治・文化	150
1993	C 義和団と清朝との関係	近代	東アジア	政治・文化	90
1992	A アンボイナ事件の結果	近世	欧州・南アジア	政治・経済	90
1992	B 航海法の目的と結果	近世	欧州	政治・経済	90
1992	C 七年戦争の経緯と結果	近世	欧州	政治・経済	150
1992	D 大陸封鎖令の目的と結果	近世・近代	欧州	政治・経済	90
1991	A 春秋戦国時代の開墾	古代	東アジア	社会・経済	90
1991	B 中国史上の移住	古代・中世・近世	東アジア	社会・経済	90
1991	C 宋代の江南の発展	中世	東アジア	社会・経済	90
1991	D 会館公所	近世	東アジア	社会・経済	90
1990	A 高麗と李朝	中世・近世	東アジア	文化(宗教含む)	120
1990	B ムガル帝国期のインド	中世・近世	南アジア	文化(宗教含む)	120
1990	C オスマン帝国	近世	西アジア	社会	120
1989	A 法顕と玄奘の事績	古代	東アジア	文化(宗教含む)	90
1989	B ガズナ朝とイスラーム	中世	中央アジア	政治・文化	90
1989	C イギリスのインド支配とアフガニスタン	近代	南アジア・中央アジア	政治	90
1989	D アフガニスタンの独立	現代	南アジア	政治	90
大問 3					
2007	10 1990年代初のモンゴルの変化	現代	東アジア	社会・経済	30

東京大学

	問題テーマ	時代	地域	分野	字数
2000	3 ニケーア公会議	古代	欧州	政治・文化	60
2000	5 キリスト教会の分裂	古代・中世	欧州	政治・社会・文化	60
1999	3 タンジマートの影響	近代	西アジア	政治・社会・経済	60
1999	8 ドル危機	現代	北米	経済	60
1992	04 明初の貿易の拡大	近世	東アジア	政治・経済	60

カリブ海と北アメリカへの人の移動

大西洋からインド洋、太平洋にかけて広がる海を舞台とした交易活動は、17世紀に入り、より活発となり、それとともにさまざまな開発が地球上に広く展開されるようになった。それらの開発によって生み出された商品は、世界市場へと流れ込んで人々の暮らしを変えていったが、開発はまた、必要な労働力を確保するための大規模な人の移動と、それにとまなう軋轢を生じさせるものであり、そこで生産される商品や生産の担い手についても、時期ごとに特徴をもっていた。

17世紀から19世紀までのこうした開発の内容や人の移動、および人の移動にとまなう軋轢について、カリブ海と北アメリカ両地域への非白人系の移動を対象にし、奴隷制廃止前後の差異に留意しながら論じなさい。解答は、解答欄（イ）に18行以内で記し、必ず次の8つの語句を一度は用いて、その語句に下線を付しなさい。

アメリカ移民法改正（1882） リヴァプール 産業革命
 大西洋三角貿易 奴隷州 ハイチ独立 年季労働者（クーリー） 白人下層労働者

解答例

17世紀にヨーロッパで生活革命が起こると、大西洋三角貿易で西アフリカからの黒人奴隷をプランテーション労働力として、カリブ海ではサトウキビ、北アメリカ南部ではタバコが栽培された。18世紀にリヴァプールを拠点として蓄積された三角貿易の利益は、綿工業を中心とするイギリス産業革命の一因をなした。19世紀前半にはアメリカ合衆国南部で原料用綿花の栽培が拡大し、黒人奴隷の使用が増加した。しかし、19世紀初頭にフランス革命の影響を受けてハイチ独立が達成され、人道的見地や自由貿易を望む産業資本家の支持でイギリス植民地でも奴隷制が廃止されると、カリブ海地域ではインド人や中国人の年季労働者が導入されるようになった。合衆国でも工業が発展した北部では奴隷制廃止の自由州が増加し、西部の新州への奴隷制適用をめぐって南部の奴隷州と対立した。南北戦争を機に奴隷制は廃止されたが、黒人の多くはシェアカロッパー制の下で小作人に留まった。西部ではゴールドラッシュを機に中国人の年季労働者が鉱山労働力として導入され、南北戦争後は大陸横断鉄道の建設労働力としても増加した。低賃金で労働する中国人に対しアイルランド人など白人下層労働者による排斥運動が起こり、1882年のアメリカ移民法改正で実質的に禁止されるにいたった。（539字）

英仏の支配と植民地の独立

ヨーロッパ列強により植民地化されたアジア・アフリカの諸地域では、20世紀にはいと民族主義（国民主義）の運動が高まり、第一次世界大戦後、ついで第二次世界大戦後に、その多くが独立を達成する。しかしその後も旧宗主国（旧植民地本国）への経済的従属や、同化政策のもたらした旧宗主国との文化的結びつき、また旧植民地からの移民増加による旧宗主国内の社会問題など、植民地主義の遺産は、現在まで長い影を落としている。植民地独立の過程とその後の展開は、ヨーロッパ諸国それぞれの植民地政策の差異に加えて、社会主義や宗教運動などの影響も受けつつ、地域により異なる様相を呈する。

以上の点に留意し、地域ごとの差異を考えながら、アジア・アフリカにおける植民地独立の課程とその後の動向を論じなさい。解答は解答欄（イ）に18行以内で記し、必ず次の8つの語句を一度は用いて、その語句に下線を付しなさい。

カシミール紛争 ディエンビエンフー スエズ運河国有化 アルジェリア戦争 ワフド党 ドイモイ
非暴力・不服従 宗教的標章法（注）

（注）2004年3月にフランスで制定された法律。「宗教シンボル禁止法」とも呼ばれ、公立学校におけるムスリム女性のスカーフ着用禁止が、国際的な論議の対象になった。

解答例

第一次世界大戦後、エジプトはワフド党のもとイギリスから独立したが、イギリスはスエズ運河駐兵権などを確保した。第二次世界大戦後、ナセルが経済的従属からの脱却を図りスエズ運河国有化を断行すると、スエズ戦争が勃発しアラブ民族主義が高揚した。インドでは、非暴力・不服従を掲げたガンディーがヒンドゥー教徒とムスリムの融和を図ったが、イギリスが宗派対立を利用して民族運動分断を図ったため、第二次世界大戦後にインドとパキスタンに分離独立し、カシミール紛争が生じた。フランス植民地下のベトナムでは、北部を拠点とする共産党のホー＝チ＝ミンが第二次世界大戦後に独立を図ったが、フランスはこれを認めずインドシナ戦争となった。ディエンビエンフーの戦いでフランスは植民地支配を断念したが、社会主義拡大を恐れたアメリカ合衆国が介入を強めたため分断国家の対立は続き、ベトナム戦争へと至った。北部の勝利で南北統一がなされたが、社会主義経済は行き詰まり、ドイモイが採用された。フランス人入植者が多かったアルジェリアでは、独立阻止を図るフランスに対しアルジェリア戦争が起こった。独立後、同化政策でフランス語教育を受けたムスリムが移民として流入したため、フランスで民族・宗教的摩擦が生じ、宗教的標章法が定められた。（538字）

イスラーム文化圏の拡大

歴史上、異なる文化間の接触や交流は、ときに軋轢を伴うこともあったが、文化や生活様式の多様化や変容に大きく貢献してきた。たとえば、7世紀以降にアラブ・イスラーム文化圏が成立するなかでも、新たな支配領域や周辺の他地域から異なる文化が受け入れられ、発展していった。そして、そこで生まれたものは、さらに他地域へ影響を及ぼしていった。

13世紀までにアラブ・イスラーム文化圏をめぐって生じたそれらの動きを、解答欄（イ）に17行以内で論じなさい。その際に、次の8つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付しなさい。

インド アッバース朝 イブン=シーナー アリストテレス
 医学 代数学 トレド シチリア島

解答例

7世紀にササン朝を滅ぼしてイランを支配し、東ローマ帝国からシリアとエジプトを奪ったイスラーム勢力は、ペルシアやギリシア・ローマの古典文化を受容した。さらに隣接したインド地域からもインド数字やゼロの概念、医学などを受容した。8世紀に成立したアッバース朝は中央アジアに進出して唐とタラス河畔で戦い、中国の製紙法も伝播した。アッバース朝はバグダードに知恵の館を設け、各地の文献のアラビア語訳をすすめ、これらの先進文化を融合したイスラーム文化を発展させた。工芸では独自のアラベスク紋様が生まれ、数学では代数学などが発展した。医学ではイブン=シーナーが活躍し、哲学ではイブン=ルシュドがアリストテレスの著作の翻訳と注釈を行った。西欧世界は、11世紀末以降の十字軍運動やレコンキスタ、両シチリア王国の建設の過程でイスラームに接し、イベリア半島のトレドや、シチリア島のパレルモにおいてアラビア語文献のラテン語訳を進めてこれらのイスラーム文化を受容して12世紀ルネサンスが展開した。トマス=アキナスはスコラ哲学を大成し、イスラム科学を受けて錬金術、建築、医学など自然科学の基盤が形成され、大学が発展し、製紙法も伝播した。

オランダ及びオランダ系の人びとの役割

ヨーロッパ大陸のライン川・マース川のデルタ地帯をふくむ低地地方は、中世から現代まで歴史的に重要な役割をはたしてきた。この地方では早くから都市と産業が発達し、内陸と海域をむすぶ交易が展開した。このうち16世紀末に連邦として成立したオランダ（ネーデルラント）は、ヨーロッパの経済や文化の中心となったので、多くの人材が集まり、また海外に進出した。近代のオランダは植民地主義の国でもあった。

このようなオランダおよびオランダ系の人びとの世界史における役割について、中世末から、国家をこえた統合の進みつつある現在の展望のなかで、論述しなさい。解答は解答欄（イ）に20行以内で記し、かならず以下の8つの語句を一度は用い、その語句に下線を付しなさい。

グロティウス コーヒー 太平洋戦争 長崎 ニューヨーク
 ハプスブルク家 マーストリヒト条約 南アフリカ戦争

解答例

中世末にバルト海交易に進出したオランダは、近世にかけてエルベ川以東の穀物を西欧へ供給し、東欧が西欧に従属する契機をなした。16世紀後半にはハプスブルク家と独立戦争を戦って、旧教に対する新教の宗教戦争を先導し、文化人や新教徒の商工業者を吸収した。グロティウスは海洋の自由を主張し、三十年戦争に際し国際法を提唱して主権国家体制を秩序づけた。17世紀のオランダは世界の一体化を牽引し、バタヴィアを拠点に香辛料貿易、長崎を拠点に日中中継貿易や日本との独占貿易を行い、大西洋奴隷交易にも進出してニューヨークの原型を建設するなど、アムステルダムは国際商業・金融の中心となった。その後、商業覇権は航海法の制定や英蘭戦争などでオランダに対抗したイギリスに移り、金融財政システムも名誉革命後のイギリスに継承された。17世紀末以後のオランダは、東南アジアの諸島部でコーヒーやサトウキビ栽培などの植民地経営を開始し、ヨーロッパ植民地主義の先駆となった。アフリカ南部のブーア人国家は南アフリカ戦争でイギリスに併合されたが、これを機にイギリスが光栄ある孤立を放棄したことは、第一次世界大戦に向かう同盟外交の契機となった。オランダの植民地帝国は、太平洋戦争でインドネシアを日本に占領された後、戦後の民族独立運動により解体に向かった。こうしたなか主権を超克する欧州統合に当初から参画したオランダは、マーストリヒト条約の調印の場となった。（600字）

近世国家の政治と宗教

次の文章は日本国憲法第二十条である。

第二十条 信教の自由は、何人に対してもこれを保障する。いかなる宗教団体も、国から特権を受け、又は政治上の権力を行使してはならない。

2.何人も、宗教上の行為、祝典、儀式又は行事に参加することを強制されない。

3.国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活動もしてはならない。

この条文に見られるような政治と宗教の関係についての考えは、18世紀後半以降、アメリカやフランスにおける革命を経て、しだいに世界の多くの国々で力をもつようになった。

それ以前の時期、世界各地の政治権力は、その支配領域内の宗教・宗派とそれらに属する人々をどのように取り扱っていたか。18世紀前半までの西ヨーロッパ、西アジア、東アジアにおける具体的な実例を挙げ、この3つの地域の特徴を比較して、解答欄(イ)に20行以内で論じなさい。その際に、次の7つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付しなさい。

ジズヤ 首長法 ダライ=ラマ ナントの王令廃止 ミット 理藩院 領邦教会制

解答例

カトリック教会が普遍的な権威として国家を超越する存在だった西ヨーロッパでは、16世紀の宗教改革によってキリスト教会が分裂すると同時に、国家権力が領域内の諸団体を統制する主権国家の形成が進み、教会も統制下に置くようになった。そこではしばしば国家によって選択された教会が人々に強制され、あるいは特権を受けた。三十年戦争でアウクスブルクの和議が確立したドイツでは領邦教会制のもと、領邦の選択した教会が個人に強制され、イギリスでは首長法のもと国王を長として成立した国教会が、審査法によって公職を独占した。フランスではユグノー戦争後に個人の信仰の自由を認めたナントの王令廃止によって、カトリックが強制された。西アジアのオスマン帝国では、イスラームの理念に基づく統治が行われ、政治と宗教が一体化してムスリムが優遇された。しかし、他の宗教に対しては寛容政策を取り、異教徒はジズヤの負担で信仰を容認された。また、異教徒が多数派の地域ではミット制のもと、各宗教を通じた自治が行われた。東アジアでは清朝が、漢人地域においては儒教を体制の教学とする伝統を継承し、科擧を振興して士大夫を登用する一方、文字の獄で反清思想を弾圧し、典礼を認めないキリスト教の布教を禁止した。一方理藩院を通じて間接統治を行った藩部では、ダライ=ラマの保護者としてふるまうことで、チベットやモンゴルで多数を占めたチベット仏教徒の支持を得ようとした。

パクス=ブリタニカ

1871年から73年にかけて、岩倉具視を特命全権大使とする日本政府の使節団は、合衆国とヨーロッパ諸国を歴訪し、アジアの海港都市に寄航しながら帰国した。その記録『米欧回覧実記』のうち、イギリスにあてられた巻は、「この連邦王国の……形勢、位置、広狭、および人口はほとんどわが邦と相比較す。ゆえにこの国の人、日本を東洋の英国と言う。しかれども営業力をもって論ずれば、隔たりもはなはだし」と述べている。その帰路、アジア各地の人々の状況をみた著者は、「ここに感慨すること少なからず」と記している。（引用は久米邦武『米欧回覧実記』による。現代的表記に改めたところもある。

世界の諸地域はこのころ重要な転機にあった。世界史が大きなうねりをみせた1850年ころから70年代までの間に、日本をふくむ諸地域がどのようにパクス・ブリタニカに組み込まれ、また対抗したのかについて、解答欄（イ）に18行以内で論述しなさい。その際に、以下の9つの語句を必ず一度は用い、その語句に下線を付しなさい。

インド大反乱 クリミア戦争 江華島事件 総理衙門 第1回万国博覧会
 日米修好通商条約 ビスマルク ミドハト憲法 綿花プランテーション

解答例

イギリスは1851年に第1回万国博覧会を開催するなど世界の工場としての工業力を誇示し、自由貿易を主張した。クリミア戦争ではフランスと結んでロシアの南下を阻止し、ヨーロッパ政治の主導権を握った。これにドイツ・イタリアは国家統合を進めて対抗し、ビスマルクは保護関税政策で工業化を進めた。ロシアも農奴解放令を軸とした近代化を開始した。合衆国南部は綿花プランテーション地域としてイギリスに従属し自由貿易を主張したが、商工業中心の北部が南北戦争で勝利し、保護関税政策をとって工業化を進めた。オスマン帝国はクリミア戦争を機に外債を導入したことで、英仏への従属が深まり、ミドハト憲法を制定して立憲君主政を試みたが、露土戦争で挫折した。従属経済化が進行したインドはインド大反乱の鎮圧後、直接統治体制が強化されてインド帝国が成立した。中国は、英仏に対するアロー戦争の敗北で開港場が増加し、また総理衙門の設置で朝貢体制から主権国家体制への移行が始まった。一方で、ヨーロッパの軍事技術の導入をはかる洋務運動が行われた。日本は日米修好通商条約で開国し、不平等条約の下で国際交易に組み込まれたが、明治維新によって立憲君主政に向かう一方、朝鮮に対して江華島事件を機に不平等条約である日朝修好条規結び開国させた。（539字）

農業生産の変化と意義

古来、世界の大多数の地域で、農業は人間の生命維持のために基礎食糧を提供してきた。それゆえ、農業生産の変動は、人口の増減と密接に連動した。耕地の拡大、農法の改良、新作物の伝播などは、人口成長の前提をなすと同時に、やがて商品作物栽培や工業化を促し、分業発展と経済成長の原動力にもなった。しかしその反面、凶作による飢饉は、世界各地でたびたび危機をもたらした。

以上の論点をふまえて、ほぼ11世紀から19世紀までに生じた農業生産の変化とその意義を述べなさい。解答は解答欄（イ）に17行以内で記入し、下記の8つの語句を必ず1回は用いたうえで、その語句の部分に下線を付しなさい。

湖広熟すれば天下足る アイルランド トウモロコシ 農業革命
 穀物法廃止 三圃制 アンデス 占城稲

解答例

11世紀頃の西欧では三圃制の普及など中世農業革命で開墾が進展し、商業ルネサンスや拡大運動を促した。中国では長江下流域で占城稲の導入や困田の干拓が進み、鎮や市の商業都市が発達した。しかし14世紀には凶作による飢饉が世界を覆い、西欧封建社会の解体やモンゴル帝国の崩壊によるユーラシア世界再編につながった。生産が回復した16世紀には東欧が農場領主制のもとで穀物生産地として、新大陸が砂糖などプランテーション生産地として西欧に従属する分業体制が成立した。中国では下流域の農村は家内工業の原料の桑や綿花の栽培に転換し、長江中流域が穀物生産地として開発されて“湖広熟すれば天下足る”と称された。17世紀の停滞を経て18世紀のヨーロッパは四輪作法による農業革命やアンデス原産のジャガイモ栽培の普及によって人口が増大し、工業化の労働力を提供した。先行したイギリスは穀物法廃止によって国際分業を唱える自由貿易体制を確立した。一方で19世紀半ばのアイルランドのジャガイモ飢饉は、合衆国工業に移民労働力を提供した。中国では18世紀にトウモロコシなどの栽培で人口が増大したが、山間地や辺境の開墾が自然破壊による飢饉をもたらし、19世紀の混乱の要因をなした。（509字）

ナショナリズムと戦争

近代以降のヨーロッパでは主権国家が誕生し、民主主義が成長した反面、各地で戦争が多発するという一見矛盾した傾向が見られた。それは、国内社会の民主化が国民意識の高揚をもたらし、対外戦争を支える国内的基盤を強化したためであった。他方、国際法を制定したり、国際機関を設立することによって戦争の勃発を防ぐ努力もなされた。

このように戦争を助長したり、あるいは戦争を抑制したりする傾向が、三十年戦争、フランス革命戦争、第一次世界大戦という3つの時期にどのように現れたのかについて、解答欄（イ）に17行以内で説明しなさい。その際に、以下の8つの語句を必ず一度は用い、その語句の部分に下線を付しなさい。

- | | | |
|------------|----------|------|
| ウェストファリア条約 | 国際連盟 | 十四カ条 |
| 『戦争と平和の法』 | 総力戦 | 徴兵制 |
| ナショナリズム | 平和に関する布告 | |

解答例

三十年戦争は国益を追求する主権国家間の国際戦争となり、傭兵の使用と常備軍によって戦禍が拡大した。グロティウスは『戦争と平和の法』で国際法の必要を唱え、戦争を終結させたウェストファリア条約は、国際法に基づく主権国家体制を確立し、主権の不可侵を確認することで戦争を抑制しようとした。フランス革命戦争では国民を統合する国民国家形成に先行したフランスが、徴兵制による国民軍で一時ヨーロッパを席卷した。各国は反仏ナショナリズムの高揚を背景に対抗したため、戦争は君主の戦争から国民の戦争となって規模が拡大した。戦後のウィーン体制は正統主義を原則としてナショナリズムを抑制し、四国同盟を組織して勢力均衡による平和維持につとめた。しかし、ウィーン体制崩壊後は各国は国民国家建設を指向し、初等教育などを通じてナショナリズムを育成し、帝国主義の対立を激化させた。そのため第一次世界大戦は広範な国民を動員する総力戦となって未曾有の損害をもたらした。ロシア革命で成立したソヴィエト政権は、平和に関する布告で国際的な労働者の連帯の主張を背景に停戦を説き、アメリカは十四カ条で国民国家間の集団安全保障に基づく平和機関を提唱し、国際連盟に結実した。(509字)

第二次世界大戦とその影響

人類の歴史において、戦争は多くの苦悩と惨禍をもたらすと同時に、それを乗り越えて平和と開放を希求するさまざまな努力を生み出す契機となった。

第二次世界大戦は1945年に終結したが、それ以前から連合国側ではさまざまな戦後構想が練られており、これらは国際連合などの新しい国際秩序の枠組みに帰結した。しかし、国際連合の成立がただちに世界平和をもたらしたわけではなく、米ソの対立と各地の民族運動などが結びついて新たな紛争が起こっていった。たとえば、中国では抗日戦争を戦っているなかでも国民党と共産党の勢力争いが激化するなど、戦後の冷戦につながる火種が存在していた。

第二次世界大戦中に生じた出来事が、いかなる形で1950年代までの世界のありかたに影響を与えたのかについて、解答欄（イ）に17行以内で説明しなさい。その際に、以下の8つの語句を必ず一度は用い、その語句の部分に下線を付しなさい。なお、EECに付した（ ）内の語句は解答に記入しなくてもよい。

大西洋憲章 日本国憲法 台湾 金日成 東ドイツ EEC（ヨーロッパ経済共同体） アウシュヴィッツ
 パレスチナ難民

解答例

戦争中連合国は首脳会談を重ねて戦後秩序を構想した。大西洋憲章で示された国際平和機関は、連合国の主要国が安全保障理事会の常任理事国となる国際連合に結実した。しかし戦後連合国は資本主義陣営と社会主義陣営に分かれ、対立が始まった。ヤルタ会談で東西両陣営の分割占領下におかれたドイツは西側の西ドイツと東側の東ドイツに分断された。カイロ会談で独立が約束された朝鮮半島は、戦争末期に米ソに分割占領されて北朝鮮と韓国に分断され、北朝鮮の金日成の南進によって朝鮮戦争が勃発した。ポツダム宣言を受諾し西側の単独占領で分割を免れた日本は、非軍事化政策で日本国憲法を制定したが、朝鮮戦争を機に日米安全保障条約を結び西側に属することになった。戦争中解放区を拡大した共産党は戦後の内戦に勝利して中華人民共和国を建国し、国民党は台湾に移った。一方、大戦で荒廃した西欧では、独仏の対立を排除して平和を維持するためにも、ECSCを経てEECによる市場統合が進められたが、アウシュヴィッツの虐殺など大戦中のドイツのユダヤ人迫害を受けて国際連合がパレスチナ分割を決議し、中東にイスラエルが建国されたことは、中東戦争によるパレスチナ難民の悲劇を新たに生み出した。

16-18世紀の世界の一体化

1985年のプラザ合意後、金融の国際化が著しく進んでいる。1997年のアジア金融危機が示しているように、現在では一国の経済は世界経済の変動と直結している。世界経済の一体化は16、17世紀に大量の銀が世界市場に供給されたことに始まる。19世紀には植民地のネットワークを通じて、銀行制度が世界化し、近代国際金融制度が始まった。19世紀に西欧諸国が金本位制に移行するなかで、東アジアでは依然として銀貨が国際交易の基軸通貨であった。この東アジア国際交易体制は、1930年代に、中国が最終的に銀貨の流通を禁止するまで続いた。

以上を念頭におきながら、16-18世紀における銀を中心とする世界経済の一体化の流れを概観せよ。解答は、解答欄（イ）を使用して、16行以内とし、下記の8つの語句を必ず1回は用いたうえで、その語句の部分に下線を付せ。なお（ ）内の語句は記入しなくてもよい。

グーツヘルシャフト（農場領主制）、一条鞭法、価格革命、綿織物
日本銀、東インド会社、ポトシ、アントウェルペン（アントワープ）

解答例

16世紀前半には西欧経済の中心は地中海から大西洋岸に移動し、アントウェルペンがアジアの香辛料や南ドイツ産の銀の集散地となって、ヨーロッパ交易とアジア・新大陸交易が結合した。さらにポトシ銀山などの新大陸の銀が流入すると貨幣価値が下落する価格革命によって西欧の商工業が発展した。新大陸は西欧の市場及び一次産品供給地として西欧経済に従属し、エルベ川以東でも西欧に穀物を供給するグーツヘルシャフトが普及して西欧経済への従属が進んだ。17世紀にはオランダの独立でアムステルダムが国際交易と金融の中心となった。一方、東アジアでは、日本銀と中国の生糸、東南アジアの香辛料などの交易が盛んとなった。ポルトガルやオランダもこの交易に参入し、スペインも太平洋を越えて新大陸の銀をもたらしたため、銀が流入した中国では銀納の一条鞭法が始まった。18世紀にはカリブ海に砂糖植民地を確保したイギリスが、インド産綿織物をアフリカに輸出し黒人奴隷を砂糖植民地に運ぶ交易を行い、東インド会社によるインドの植民地化も開始して、国際交易と金融の覇権を握った。しかし中国との茶貿易では銀の流出が続いた。

(478字)

運輸・通信技術の影響

私たちは、情報革命の時代に生きており、世界の一体化は、ますます急速に進行している。人や物がひんぱんに往きかうだけでなく、情報はほとんど瞬時に全世界へ伝えられる。この背後には、運輸・通信技術の飛躍的な進歩があると言えよう。

歴史を振り返ると、運輸・通信手段の新展開が、大きな役割を果たした例は少なくない。特に、19世紀半ばから20世紀初頭にかけて、有線・無線の電信、電話、写真機、映画などの実用化がもたらされ、視聴覚メディアの革命も起こった。またこれらの技術革新は、欧米諸国がアジア・アフリカに侵略の手を伸ばしていく背景としても注目される。例えば、ロイター通信社は、世界の情報をイギリスに集め、大英帝国の海外発展を支えることになった。一方で、世界中で共有される情報や、交通手段の発展によって加速された人の移動は、各地の民族意識を刺激する要因ともなった。

運輸・通信手段の発展が、アジア・アフリカの植民地化をうながし、各地の民族意識を高めたことについて、下記の9つの語句を必ず1回は用いながら、解答欄(イ)を用いて17行以内で論述しなさい。

スエズ運河 汽船 バグダード鉄道
 モールス信号 マルコーニ 義和団
 日露戦争 イラン立憲革命 ガンディー

解答例

スエズ運河の開通や運輸技術の発達にはアジア・アフリカへの距離と時間を短縮して列強の進出を促し、バグダード鉄道など資本投下の対象としての鉄道建設は、帝国主義の競争を激化させた。鉄道は列強の資本の浸透を可能として伝統的産業や社会の破壊と市場化も進展させた。モールス信号の開発を契機とするケーブル網の発達とマルコーニの無線通信の発明は、列強の帝国主義政策の推進と支配の強化に利用された。義和団事件においてその情報は直ちに列強に伝達され、各国の協調による早急な鎮圧を可能とした。しかし一方で運輸・通信手段の発展は、民族運動の結合や広範囲の連帯に寄与して民族運動を高揚させる要因ともなった。インド洋の汽船航路や内陸の鉄道網の整備はムスリムのメッカ巡礼を盛んとし、ワッハーブ派の復古主義運動や、アフガニーのパン＝イスラーム主義思想の伝播を可能としてイスラーム世界各地の民族運動を刺激した。日露戦争の日本の勝利の情報は、通信網によって世界に伝達され、イラン立憲革命などアジア各地の民族運動を高揚させた。第一次世界大戦後のインドで、ガンディーは視聴覚メディアも巧みに利用して非暴力不服従運動への民衆動員や国際世論の支持獲得を実現した。(509字) ☒☒

華僑

世界の都市を旅すると、東南アジアに限らず、オセアニアや南北アメリカ、ヨーロッパなど、至る所にチャイナ・タウンがあることに驚かされる。その起源を探ると、東南アジアの場合には、すでに宋から明の時代に、各地に中国出身者の集住する港が形成され始めていた。しかし、中国から海外への移住者が急増したのは、19世紀になってからであった。その際、各地に移住した中国人は低賃金の労働者として酷使されたり、ヨーロッパ系の移住者と競合して激しい排斥運動に直面したりした。たとえば、米国の場合、1882年には新たな中国人移民の流入を禁止する法律が制定された。米国がこのような中国人排斥法を廃止したのは第二次世界大戦中のことであり、大戦後にはふたたび中国からの移住者が増加した。

上述のような経緯の中で、19世紀から20世紀はじめに中国からの移民が南北アメリカや東南アジアで急増した背景には、どのような事情があったと考えられるか、また海外に移住した人々が中国本国の政治的な動きにどのような影響を与えたか、これらの点について、15行（450字）以内で述べよ。なお、以下に示した語句を一度は用い、使用した場所に必ず下線を付せ。

植民地奴隷制の廃止 サトウキビ・プランテーション ゴールド・ラッシュ 海禁 アヘン戦争 海峡植民地 利権回収運動 孫文

解答例

19世紀になると、植民地奴隷制の廃止によって黒人奴隷にかわる新たな安い労働力に対する需要が高まった。このため、アヘン戦争の敗北によって海禁が崩壊した清から、増税と銀価の上昇で困窮化した多くの中国人が苦力として各地に送られた。中国人はカリブ海域のサトウキビ・プランテーションなどで労働者となったほか、合衆国では、金鉱が発見されてゴールド・ラッシュが起こるとその鉱山開発に従事したり、大陸横断鉄道の建設労働者となった。また中国からの移民が最も多かったのは東南アジアであり、特に海峡植民地のシンガポールを拠点にイギリスは、既存の華僑ネットワークを交易活動などに利用しつつ、マレー半島の錫鉱山に苦力として中国人を導入した。当初は社会の最底辺で苦しむことが多かった彼らは、地縁や血縁で団結して社会的地位を上昇させたが、様々な排外運動に直面すると、本国政府の保護を期待した。その中で、改革運動を支持する者は、利権回収運動などに、弱体な清にかわる強力な政府を求める者は、孫文の指導する革命運動に、資金を提供した。

(450字)

啓蒙思想の歴史的意義

大航海時代以降、アジアに関する詳しい情報がヨーロッパにもたらされると、特に18世紀フランスの知識人たちの間では、東方の大国である中国に対する関心が高まった。以下に示すように、中国の思想や社会制度に対する彼らの評価は、称賛もあり批判もあり、様々だった。彼らは中国を鏡として自国の問題点を認識したのであり、中国評価は彼らの社会思想と深く結びついている。

儒教は実に称賛に価する。儒教には迷信もないし、愚劣な伝説もない。また道理や自然を侮辱する教理もない。
 (略) 四千年来、中国の識者は、最も単純な信仰を最善のものと考えてきた。(ヴォルテール)

ヨーロッパ諸国の政府においては一つの階級が存在していて、彼らこそが、生まれながらに、自身の道徳的資質とは無関係に優越した地位をもっているのだ。(略) ヨーロッパでは、凡庸な宰相、無知な役人、無能な将軍がこのような制度のおかげで多く存在しているが、中国ではこのような制度は決して生まれなかった。この国には世襲的貴族身分が全く存在しない。(レーナル)

共和国においては徳が必要であり、君主国においては名誉が必要であるように、専制政体の国においては「恐怖」が必要である。(略) 中国は専制国家であり、その原理は恐怖である。(モンテスキュー)

これらの知識人がこのような議論をするに至った18世紀の時代背景、とりわけフランスと中国の状況にふれながら、彼らの思想のもつ歴史的意義について、解答欄(イ)を用いて15行以内で述べよ。なお、以下に示した語句を一度は用い、使用した場所には必ず下線を付せ。

イエズス会 ナント勅令廃止 科挙 フランス革命 啓蒙 身分制度 絶対王政 文字の獄

解答例

18世紀にはフランスを中心に人間の理性によって事物を検討し、真実を捉え直そうとする啓蒙思想が発達した。この思想は、迷信や偏見を捨てて理性による理解をめざす合理主義や、個人を社会の基本要素とする個人主義、個人の自由が社会を発展させるとする自由主義として展開した。こうしたなかで、中国で布教活動をしたイエズス会宣教師がもたらした中国の思想や文化は、フランス社会の抱える問題をより明確にした。ナント勅令廃止以来フランスの主流となったカトリック信仰は、合理主義によって現実主義的な中国の儒教と比べ、迷信や伝説を多く含むとされて批判された。また個人主義の立場からは、中国の官吏登用試験である科挙が実力主義と捉えられ、フランスの世襲身分制度であるアンシャン=レジームが批判された。さらに自由主義は、フランスの絶対王政を、中国で行われた文字の獄など恐怖に基づく皇帝専制体制と同様だとして批判した。こうした議論を経て、啓蒙思想は後のフランス革命の思想的背景を形成するとともに、近代世界で主流となる価値観を発展させた。(450字)

イベリア半島の歴史

ある地域の歴史をたどると、そこに世界史の大きな流れが影を落としていることがある。イベリア半島の場合もその例外ではない。この地域には古来さまざまな民族が訪れ、多様な文化の足跡を残した。とりわけヨーロッパやアフリカの諸勢力はこの地域にきわめて大きな影響を及ぼしている。このような広い視野のもとでながめるとき、紀元前3世紀から紀元15世紀末にいたるイベリア半島の歴史はどのように展開したのだろうか。その経過について15行（450字）以内で述べよ。なお、下に示した語句を一度は用い、使用した語句には必ず下線を付せ。

カスティリヤ王国	カール大帝	カルタゴ	グラナダ
コルドバ	属州	西ゴート	ムラービト朝

解答例

前3世紀頃のイベリア半島にはカルタゴの植民都市が繁栄していたが、ポエニ戦争を契機にローマの属州となり、ローマ文化が浸透した。5世紀のゲルマン人の侵入では西ゴート王国が建国されたが、8世紀にはウマイヤ朝イスラーム勢力が進出してこれを滅ぼし、その後、後ウマイヤ朝が成立してカール大帝のフランク王国とも抗争した。そして都のコルドバは、ギリシア・ローマ文化を継承・発展させたイスラーム文化の中心の一つとして繁栄した。11世紀になるとイベリア半島の南部は、マグリブ地方に成立したベルベル人のムラービト朝やムワッヒド朝があいついで支配したが、半島の北部ではカスティリア王国などによるレコンキスタが本格化し、キリスト教徒の支配領域となった。この過程で、アラビア語文献のラテン語への翻訳がトレドなどで盛んとなり、中世ヨーロッパ文化に大きな影響を与えた。アラゴン王国・カスティリア王国の合邦で成立したスペイン王国が、15世紀末グラナダにあったナスル朝を滅ぼしてレコンキスタを完成させると、半島のカトリック化が進行した。（448字）

アメリカ史

アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国は、ともにヨーロッパ諸国の植民地として出発した。しかし、独立後は、イギリスの産業革命などの影響の下で対照的な道を歩むことになった。たとえば、アメリカ合衆国の場合は、急速な工業化を実現していったのに対して、ラテンアメリカ諸国の場合は、長く原材料の輸出国の地位にとどまってきた。そしてラテンアメリカ諸国は、政治的にも経済的にもアメリカ合衆国の強い影響下におかれることになったが、その特徴は、現在のラテンアメリカ諸国のあり方にも大きな影響を及ぼしている。

そこで、18世紀から19世紀末までのアメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の歴史について、その対照的な性格に留意しつつ、ヨーロッパ諸国との関係や、合衆国とラテンアメリカ諸国との相互関係のあり方の変化を中心に、下に示した語句を一度は用いて、15行（1行30字なので450字以内）で記せ。なお使用した語句には必ず下線を付せ。

プランテーション パン＝アメリカ会議 南北戦争 ウィーン体制
 自由貿易主義 モンロー宣言 クリオーリオ 米英戦争

解答例

植民地時代のラテンアメリカ・合衆国南部は、プランテーションの商品作物や鉱物資源など一次産品の供給地であり、自営農民中心で造船業の発展が見られた合衆国北部も本国の重商主義政策で抑圧されていた。独立後の合衆国では米英戦争を機に北部工業が自立し、北部は保護貿易主義を主張した。南部は綿花栽培が盛んとなってイギリス工業の原料供給地となり、自由貿易主義を主張した。南北戦争後、合衆国は北部中心に再編され、西部開発の進展もあって急速に工業化した。ラテンアメリカ諸国では独立運動の指導者のクリオーリオの大部分が大地主だったため、社会構造は変化せず原料輸出国にとどまった。ウィーン体制下のヨーロッパの干渉に対しては、合衆国はヨーロッパとアメリカ大陸の相互不干渉のモンロー宣言を発し独立を支援したが、その後は自国の西部開発に重点を置いた。しかし、19世紀末にフロンティアが消滅すると、対外進出を意図し、パン＝アメリカ会議によってラテンアメリカ諸国に対する影響を強め、1898年の米西戦争を機に積極的なカリブ海政策を展開した。（450字）

第一次世界大戦前後の帝国の解体

20世紀の民族運動の展開を考えるさい、第一次世界大戦の前後の時期は大きな意味をもっている。この時期にはユーラシアの東西で旧来の帝国が崩壊し、その結果一部の地域では独立国家も生まれたが、未解決の問題も多く残った。それは、現代世界の民族と国家をめぐる紛争の原点ともなった。こうした旧来の帝国の解体の過程とその後の状況について、とくにそれぞれの帝国の解体過程の相違に留意しながら、450字（15行）以内で述べよ。なお、下に示した語句を一度は用い、使用した箇所には必ず下線を付せ。

民族自決 三民主義 少数民族 シオニズム
アラブ モンゴル オーストリア・ハンガリー バルト三国

解答例

第一次世界大戦前には、三民主義を掲げた辛亥革命で清帝国が解体し、中華民国が成立した。その混乱に乗じて外モンゴルが独立し人民共和國となったが、中央アジアやチベットの民族問題は残った。第一次世界大戦中には、ロシア帝国がロシア革命によって解体し、社会主義のソヴィエト政権が成立した。ブレスト＝リトフスク条約でドイツに割譲した地域では大戦後フィンランド・バルト三国・ポーランドが独立したが、その他のウクライナや中央アジアの民族運動は抑圧された。第一次世界大戦の敗北で解体したオーストリア＝ハンガリー帝国では民族自決の原則が適応され、サン＝ジェルマン条約でハンガリー・チェコスロヴァキア・ユーゴスラヴィアが独立した。しかしいずれも少数民族問題を抱え、その後の紛争の要因となった。オスマン帝国は第一次世界大戦の敗北で解体され、セーヴル条約で半植民地化されたが、トルコ革命を遂行したアンカラ臨時政府がローザンヌ条約で主権の回復に成功し、トルコ共和国を樹立した。旧領土のアラブ人地域はイギリス・フランスの委任統治領とされ、パレスチナでは大戦中のイギリスの二重外交の結果、シオニズム運動で移民し増大したユダヤ人とアラブ人の対立が激化した。（510字）

パクス＝ブリタニカ

18世紀後半にイギリスで始まった産業革命は、世界全体に工業社会の到来をもたらし、現代世界の形成に大きな役割を果たした。そのさい、人々はイギリスの覇権を「パクス＝ローマナ」（ローマの平和）になぞらえて「パクス＝ブリタニカ」と呼んだ。しかし、「パクス＝ブリタニカ」の展開には、さまざまな地域において、これに対抗する動きが伴った。現代世界はこのような対抗関係を重ねるなかで形作られたとも言えよう。そこで、19世紀中ごろから20世紀50年代までの「パクス＝ブリタニカ」の展開と衰退の歴史について、下に示した語句を一度は用いて、15行（450字）以内で述べよ。なお、使用した語句に必ず下線を付せ。

自由貿易 南京条約 アラービー＝パシャ 3C政策
 マハトマ＝ガンディー 宥和政策 マーシャル＝プラン スエズ運河国有化

解答例

世界の工場となったイギリスは清朝にアヘン戦争を行い、南京条約を締結して市場の拡大を求めると、自由貿易政策を推進した。しかし第二次産業革命への転換が遅れて米独に脅かされると、「世界の銀行」として資本輸出を目的とする帝国主義を推進し、エジプトで起こったアラービー＝パシャの乱を鎮圧するなど、アフリカ縦断政策とインド政策を結びつける3C政策で勢力圏の拡大を図った。しかし第一次世界大戦を機にインドでマハトマ＝ガンディーが非暴力不服従運動を展開するなど、植民地の政治的経済的自立傾向が強まると、覇権が揺らいだイギリスは自治領の協力を求めて大英帝国を英連邦に改変し、世界恐慌ではブロック経済政策を取った。ナチスの台頭には宥和政策で対処したが、第二次世界大戦勃発を防げず、これを機に植民地独立の形勢が決定的となった。戦後はマーシャル＝プランの受け入れで経済的にアメリカに従属し、エジプトのスエズ運河国有化に反対して行ったスエズ出兵は、米ソを初め各国の反対を受け撤退を余儀なくされ、イギリスの覇権は終わった。（447字）

地中海世界の交流と対立

1453年、オスマン帝国のメフメト2世は、コンスタンティノープルを陥れてビザンツ帝国を滅ぼし、その結果、地中海世界は東西二つの文明の対立するところとなった。西アジア世界と東ヨーロッパおよび西ヨーロッパ世界は、ローマ帝国の成立以後、地中海を舞台にしてたがいに長い交流と対立の歴史を重ねてきた。この間に新しい宗教や文明がおこり、これらの世界の間で人と物と文化の交流が活発に行われた。

では、ローマ帝国の成立からビザンツ帝国の滅亡に至るまで、地中海とその周辺地域では、どのような文明がおこり、また異なる文明の間でどのような交流と対立が生じたのか。下に示した語句を一度は用いて、20行600字以内で記せ。なお、使用した語句には必ず下線を付せ。

ヘレニズム 聖像禁止令 カール戴冠 ムスリム商人
 十字軍 ギリシア語 アラビア語 イスラム科学

解答例

ローマ帝国は地中海世界を支配する過程でヘレニズム文明を吸収し、4世紀末にはキリスト教を国教としてこの地域に浸透させた。その後東西に分裂したローマ帝国のうち、東のビザンツ帝国はギリシア語と正教会を中心とする東ヨーロッパ文明圏を構成した。西ローマ帝国はゲルマン人の侵入で崩壊しゲルマン世界となったが、ビザンツ皇帝がイスラームの影響で出した聖像禁止令に反発したローマ教会がフランク王国に接近し、カール戴冠で西ローマ帝国が復興したことで、ラテン語とゲルマン要素を特徴としカトリック教会を中心とする西ヨーロッパ文明圏が成立した。7世紀アラビア半島で成立したイスラームは、ビザンツ帝国からエジプト・シリアを奪って地中海世界に進出し、イベリア半島の西ゴートを滅ぼしてゲルマン世界を圧迫し西ヨーロッパ世界の形成に影響を与えた。イスラームはイスラーム教とアラビア語を核とし、ヘレニズム文明なども融合した普遍的文明を確立した。セルジューク朝のビザンツ圧迫を機に始まった十字軍は交易網を発達させ、ムスリム商人との香辛料など東方貿易を盛んにした。同じ頃イベリア半島ではレコンキスタが進展し、これらを背景にアラビア語文献のラテン語翻訳が進み、西欧にイスラーム科学などが流入して12世紀ルネサンスが興り、スコラ学も発展した。さらにオスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼすと、その前後に古典学者が移住してイタリア＝ルネサンスを加速させた。

(600字)

モンゴル帝国

13世紀は「モンゴルの世紀」と呼ばれる。チンギス=ハーンが、モンゴル高原を統一してモンゴル帝国を築くと、続いて各ハーンが度重なる征服戦争をおこなった。彼らは中国を支配したばかりでなく、朝鮮半島、東南アジアまで勢力を伸ばし、さらに中東イスラム世界、ロシア・東欧にいたる大帝国をつくりあげた。

マルコ=ポーロは『東方見聞録』の中で、この帝国の多様な性格について、次のように述べている。

フビライ=ハーンは11月にカンバルック（大都）に帰還し、そのまま2～3月の候までそこに逗留している間に、われわれの復活祭の季節がめぐってきた。…彼は盛大な儀式を催して自ら何回も福音書に焼香した後、敬虔な態度で吻をこれに当て、かつ居並ぶすべての重臣・貴族にも命じて彼らにならわしめた。この儀式はクリスマス・復活祭といったようなキリスト教徒の主要祭典に際してはいつも挙行される例であった。しかしハーンはイスラム教徒・偶像教徒（仏教徒）・ユダヤ教徒の主要聖節にも、やはり同様に振る舞うのだった。

このモンゴル帝国の各地域への拡大過程とそこにみられた衝突と融合について、宗教・民族・文化などに注目しながら論ぜよ。解答は、下に示した語句を一度は用いて、20行（600字）以内で記せ。また使用した語句には下線を付せ。

ガザン=ハーン 色目人 バトゥ 大理国 駅伝制 モンテ=コルヴィノ 細密画 マジャパイト王国 授時曆

解答例

モンゴル諸族を統一したチンギス=ハーンは、内陸アジアの通商路に進出してホラズム・西夏を滅ぼし、続くオゴタイ=ハーンは金を滅ぼして華北を支配し、バトゥ西征でロシアを支配するとともにワールシュタットの戦いで西欧に衝撃を与えた。その後モンケ=ハーンはフラグを派遣してアッバース朝を滅ぼし、フビライに雲南の大理国を滅ぼさせ、高麗を服属させた。ついでハーンとなったフビライは、国号を元と改め南宋を滅ぼして中国を統一し、東南アジアではビルマのパガン朝を滅ぼし、ジャワ遠征を機に成立したマジャパイト王国を朝貢させた。各ハン国の自立後も帝国は緩やかな統合を保ち、草原の道や絹の道の交通路が整備されて駅伝制が施行され、海の道による交易も活発化したため、東西交流が盛んとなった。宗教面では、元ではチベット仏教が優遇されたが他の諸宗教も尊重され、モンテ=コルヴィノが大都でカトリックを布教した。イル=ハン国では当初ネストリウス派が優勢でイスラーム教と対立したが、ガザン=ハーン時にイスラーム教が国教となった。民族面では、元で支配層のモンゴル人とともに西域以西の色目人が優遇されるなど、帝国各地でイラン人などイスラーム教徒が登用された。文化面では、宋代に発明された火薬が西伝したほか、中国絵画がイランの細密画に影響を与えた。また元では中国文化が相対化され、イスラーム世界の天文学・暦学の影響を受けて郭守敬が授時曆を作製した。

分裂国家の展開

現在、世界は冷戦の終わりを迎えている。第二次世界大戦後、長期にわたって世界史の流れに影響を与えた冷戦は、世界の各地域で異なった現れ方をした。冷戦下の深刻な問題の一つが分裂国家の出現であったが、これまでにベトナムとドイツの二つの分裂国家が統合されている。この二つの分裂国家の形成から統合への過程を、冷戦の展開と関連づけて略述せよ。解答は、下に示した語句を一度は用いて、20行（600字）以内で記せ。また、使用した語句には下線を付せ。

ゴルバチョフ ジュネーブ会議 封じ込め政策 平和共存 ベルリンの壁

解答例

第二次大戦後英米仏ソ四ヶ国の占領下にあったドイツは、封じ込め政策とコミンフォルム結成で東西冷戦が激化し、西側の通貨改革断行に対してソ連がベルリン封鎖を行ったことで東西の分裂が確定した。1950年代後半には雪解けが進展し、平和共存が唱えられたが、ドイツ問題は解決せず、1961年にはベルリンの壁が構築された。1970年代になるとデタントの動きの中で西ドイツ首相ブランドが東方外交を行い、1972年に東西ドイツ基本条約を締結して翌年の国連同時加盟を実現した。1980年代後半になるとゴルバチョフの新思考外交で冷戦が終結に向かい、1989年にはベルリンの壁が破壊され、翌年ドイツは統合された。第二次大戦後共産主義勢力を中心に北部にベトナム民主共和国が成立したベトナムでは、フランスとの間でインドシナ戦争が発生し、その過程で南部にベトナム国が建国されて南北分断が確定した。フランスは1954年にジュネーブ会議の休戦協定を受けて撤退したが、共産主義への巻き返しをはかるアメリカが介入し南部にベトナム共和国が建国された。それに対し北ベトナムが支援する南ベトナム解放民族戦線が結成され内戦が激化すると、アメリカは1965年に北爆を行ってベトナム戦争を本格化した。しかしアメリカはデタントの一環として1973年にはパリ協定でベトナムから撤退した。そのため優位に立った北が南を統合する形で、1976年にベトナム社会主義共和国が成立した。

国際体制の変化と主権国家の拡大

今日の地球は、ほとんどが独立した主権をもつ国家によっておおわれている。このように国際社会が主権国家によって構成される状態を、主権国家体制と呼ぶことができるが、それは歴史的に形成されたものであった。次の①南北アメリカ、②東ヨーロッパ、③東南アジア、を中心とする概略図は、白い部分が主権国家体制のもとにある地域を表している。これら三組の地図は、主権国家により構成される国際関係の発展にとって画期をなした三つの世界変動の、それぞれの前後の時期の変化を示したものである。この三組の地図に示された変化の特色に注目して、主権国家体制がそれぞれの段階でいかなる新しい展開を示したかを、600字以内で論ぜよ。

解答例

アメリカ合衆国が独立すると、ヨーロッパで成立した主権国家体制は、新大陸に拡大した。啓蒙思想に基づき国民を構成単位とする国民国家の成立は、ヨーロッパに影響してフランス革命の一因となった。さらにアメリカ独立革命とフランス革命はラテンアメリカ諸国の独立を促し、今度はそれがウィーン体制を動揺させるなど、環大西洋地域は相互に影響を及ぼしつつ主権国家体制を発展させた。ウィーン体制崩壊後も、東欧諸地域はドイツ帝国、オーストリア・ハンガリー帝国、ロシア帝国の支配下であり、被支配民族の独立運動は抑圧されていた。しかし、第一次世界大戦でこれらの帝国が崩壊し、ロシア革命の「平和に関する布告」やアメリカウィルソン大統領の十四カ条の原則で民族自決が提唱されると、パリ講和会議において東欧地域にポーランド、チェコスロヴァキア、ユーゴスラヴィアなどの諸国家が成立した。しかし民族自決原則は、ヨーロッパにしか適応されず、アジア・アフリカの多くの地域は欧米の植民地のままであった。第二次世界大戦では、日本が大東亜共栄圏を唱えて東南アジア地域の独立を主張する一方、連合国も大西洋憲章で植民地問題の解決を約束した。また、東南アジア地域で日本軍支配に対する抵抗運動が、民族独立運動に発展するなど、独立を求める民族運動が植民地諸地域において高揚した。そのため第二次世界大戦後に、多くの植民地が独立して主権国家体制は世界全体に拡大した。

中世から近世の政治体制の変化

西アジアのイスラム世界では、9世紀半ばを過ぎるとカリフの権威はしだいに失われ、官僚と軍隊にたいして現金俸給を支払う体制を維持することがむずかしくなった。西ヨーロッパではフランク王国の分裂後、諸侯が割拠し、南アジアでもハルシャ・ヴァルダナの死後、地方政権が乱立する状態となった。

まず西アジアを中心にして、これに続く10世紀から17世紀にかけてのイスラム世界における政治体制の変化を簡潔に述べ、次いでこれと対比しつつ同時代の西ヨーロッパ世界、南アジア世界における政治体制の変化を略述せよ。解答は、下に示した語句を一度は用いて、600字以内で記せ。

カリフ制、イクター制、マムルーク、スルタン制、封建制度、教皇権、絶対主義（あるいは絶対王政）、ヒन्दゥー教徒、人頭税

解答例

西アジアでは10世紀にブワイフ朝がアッバース朝カリフの実権を奪い、官僚や軍人に土地の徴税権を与えるイクター制を創始し、分権化が進んだ。ブワイフ朝に代わったセルジューク朝は、カリフからスルタンの称号を受け、宗教的権威をカリフが、世俗の権力をスルタンが分担するスルタン制を確立した。1258年にモンゴル帝国がアッバース朝を滅ぼすとカリフ制は終焉したが、16世紀のオスマン帝国はメッカ・メディナの管理権を得て政教両権を統合した。10世紀の西欧世界では外敵の侵入に地方有力者が対抗する中で封建制が普及した。東フランク王国が962年に皇帝権を復活させて西欧の統合の核となったが、11世紀末から教皇権が叙任権闘争で皇帝権に挑戦し、13世紀には教皇権がキリスト教共同体の首位に立った。14世紀はペストの流行や戦法の変化を背景に封建諸侯が没落する一方、教皇権も没落し、15世紀から17世紀の西欧では王権が伸張して、絶対主義をとる主権国家が併存する主権国家体制に移行していった。分裂が続いた南アジアでは、13世紀初頭にゴール朝のマムルークが自立してインド最初のイスラーム王朝である奴隷王朝が成立した。以後のインドのイスラーム王朝はヒन्दゥー教徒に改宗を強制せず、既成の社会秩序を維持した。16世紀後半のムガル帝国のアクバル帝は人頭税のジズヤを廃止する一方、土地制を整備し、イクター制と類似の制度をとった。

第一次世界大戦後の大衆運動

第1次世界大戦は総力戦であり、植民地の人々も動員された結果、列強の国内はもとより、その支配地域も大きな変動に見舞われた。そのため、第1次世界大戦期から1920年代半ばにいたる約10年間には、世界各地で様々な性格をもつ大衆的な政治運動が高まることになった。この時期のヨーロッパとアジアにおける大衆的な政治運動の展開について、具体的な事例を挙げながら、600字以内で論じなさい。

解答例

ロシアでは社会主義革命が起こり、ボリシェヴィキによるソヴィエト政権が成立した。ついでドイツでも革命が勃発し第一次世界大戦は終結したが、スパルタクス団の蜂起は失敗して社会主義運動は分裂した。敗戦と苛烈な講和条約を背景にナチスも結成された。自治領・植民地の戦争協力に依存したイギリス帝国では、アイルランドがイースター蜂起を起こし戦後に自治領となり、戦時中の自治の約束を裏切られたインドでは、ガンディーが非暴力・不服従運動を展開した。他でも植民地・半植民地では、ソヴィエト政権の平和に関する布告や合衆国のウィルソンが示した十四か条における民族自決の理念に期待が広がり、朝鮮の三・一運動などを導いた。しかし、パリ講和会議でアジアに民族自決は適用されなかった失望と怒りは中国の五・四運動を生じさせた。一方、コミンテルンへの期待が高まり、インドネシア共産党が結成されたほか、大衆政党の中国国民党がコミンテルンの仲介で中国共産党と国共合作を成立させた。敗戦国オスマン帝国では、連合国による解体の危機に瀕する中、トルコ民族主義のもと民衆が抵抗を続け、ムスタファ＝ケマルは、オスマン帝国を滅ぼしトルコ共和国を建てた。戦勝国でも講和内容に不満を抱いたイタリアでは、戦後の不況もあり貧困層の暴動・デモが相次いだ。共産主義の台頭を恐れた富裕層はファシズムに期待し、ムッソリーニはローマ進軍を経てファシズム政権を成立させた。

東京大学 1989 1 A

問題 近世・近代

欧州・東アジア

近世から近代の西欧と中国の関係

近代初頭以降、西ヨーロッパ諸国と中国の間には、政治・経済・文化の諸分野でさまざまな交渉があった。これについて、以下の設問に答えよ。解答は冒頭に(A),(B)の符号を付して、それぞれ指定の行数以内で記入せよ。(注、1行は30字)

〔設問〕

(A) 18世紀半ばから19世紀半ばにいたる時期について、西ヨーロッパ諸国と中国との通商関係の推移を12行以内で述べよ。

解答例

A清は1757年海外貿易を廣州一港と、公行という特許商人組合に限定した。当時対清貿易をほぼ独占しながら、茶貿易による一方的な銀の流出に苦しんだイギリスは、自由貿易による綿製品の市場拡大を求めてマカートニーやアマストを派遣し、貿易制限の撤廃を迫ったが、清が応じなかったため、インドで栽培したアヘンを清に密輸する三角貿易で銀の回収をはかった。清ではアヘンの害毒が広まり、加えて銀が国外流出し始めたため、林則徐を派遣して密貿易を取り締まったが、これを機にイギリスは1840年アヘン戦争をおこし、南京条約で香港割譲、上海など五港開港、公行廃止を認めさせ、さらに定率関税を承認させた。その後、米仏も同様の条約を結んだが、綿製品の輸出が思うように増えなかったイギリスは、フランスを誘ってアロー戦争をおこし、北京条約で開港場を拡大した。

東京大学 1989 1 B

問題 近世・近代

欧州・東アジア

近世～近代の中国と欧州の交流

近代初頭以降、西ヨーロッパ諸国と中国の間には、政治・経済・文化の諸分野でさまざまな交渉があった。これについて、以下の設問に答えよ。解答は冒頭に(A),(B)の符号を付して、それぞれ指定の行数以内で記入せよ。(注、1行は30字)

〔設問〕

(B) 明朝末期から清朝前期にかけての時期のイエズス会士への対応と、清朝末期の洋務運動とを例にとり、中国がヨーロッパ文化を受容するにさいして示した態度の特徴を8行以内で述べよ。

解答例

Bこの二つの時期の中国のヨーロッパ文化受容の特徴は、技術面での有用性を認識し、それを積極的に導入する一方、中華思想と儒教秩序の優位性に対する確信があったことである。イエズス会に関しては、暦法や地図作成、大砲鑄造などに登用し、キリスト教布教も認めしたが、皇帝崇拝や孔子崇拝などの典礼の承認が前提となっており、他会派が典礼を批判する典礼問題が生じると、他会派は排除された。洋務運動では軍事技術や近代工場制度を導入し、富国強兵を目指したが、政治体制の近代化は求めず皇帝専制体制を堅持した。

キリスト教徒迫害の理由

国家と宗教の関わりについての、以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1)紀元前1世紀に地中海世界を統一したローマは、その広大な帝国を統治するために、宗教をさまざまな形で支配政策に組み入れていった。パレスチナの地に生まれてローマ帝国内に信仰を広げたキリスト教は、皇帝による宗教政策との関わりで、(a)はじめ激しく迫害されたが、やがて(b)紀元後4世紀前半には国家に受け入れられるようになった。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) キリスト教徒がローマ皇帝に迫害された理由を2行以内で説明しなさい。

解答例

唯一絶対神を信仰するキリスト教徒が、ローマ帝国の国家祭祀への参加や皇帝崇拝を拒否したために反社会的集団とみなされた。(58字)

キリスト教の公認

国家と宗教の関わりについての、以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1)紀元前1世紀に地中海世界を統一したローマは、その広大な帝国を統治するために、宗教をさまざまな形で支配政策に組み入れていった。パレスチナの地に生まれてローマ帝国内に信仰を広げたキリスト教は、皇帝による宗教政策との関わりで、(a)はじめ激しく迫害されたが、やがて(b)紀元後4世紀前半には国家に受け入れられるようになった。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) キリスト教徒はローマ皇帝によってどのように公認されたか、その皇帝の名前と公認の理由に触れながら、2行以内で説明しなさい。

解答例

コンスタンティヌス帝は、増加するキリスト教徒を体制側にとりこみ、キリスト教で帝権を強化するため、ミラノ勅令で公認した。(59字)

魏晋南北朝時代の仏教普及

国家と宗教の関わりについての、以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) 中国では魏晋南北朝時代となると、国家との関わりのなかで、今日まで影響力をもつような宗教が現れた。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) この時代には、鳩摩羅什が華北で国家の保護を受けて布教するなど、仏教が本格的に広まった。陸路や海路で西域やインドとの間を行き来して、仏教の普及につとめた人々の活動について、2行以内で説明しなさい。

解答例

西域出身の仏図澄は、華北で布教して多くの弟子を育成し、法顕はインドに赴いて東晋に仏典を持ち帰り、『仏国記』を著した。(58字)

道教の成立

国家と宗教の関わりについての、以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) 中国では魏晋南北朝時代となると、国家との関わりのなかで、今日まで影響力をもつような宗教が現れた。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) 北魏では、太武帝の保護を受け、その後の中国で広く信仰される宗教が確立した。その宗教の名称とその特徴、およびその確立の過程について2行以内で説明しなさい。

解答例

道教は不老長生といった現世利益的性格が強い宗教で、神仙思想や五斗米道などを源流とし、寇謙之が仏教に対抗して教団化した。(59字)

東京大学 2013 2 3a

問題 古代・中世

欧州

ゲルマン諸国家の王の信仰

国家と宗教の関わりについての、以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(3) メロヴィング朝フランク王国の急速な勢力拡大の背景には、その基礎を築いた王の改宗があったと考えられている。以下の(a)・(b)の問いに冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 他のゲルマン諸部族の王の大部分は、当時どのような宗教を信仰していたか、2行以内で説明しなさい。

解答例

ニケーア公会議で異端とされ、ローマ帝国域内での信仰が禁止されていたアリウス派のキリスト教を信仰していた。(52字)

東京大学 2013 2 3b

問題 古代

欧州

フランク王国初代王の改宗

国家と宗教の関わりについての、以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(3) メロヴィング朝フランク王国の急速な勢力拡大の背景には、その基礎を築いた王の改宗があったと考えられている。以下の(a)・(b)の問いに冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) このメロヴィング朝の王は、どのような宗教に改宗したのか、この王の名前とともに、2行以内で説明しなさい。

解答例

クローヴィスは、ローマ帝国でキリスト教の正統とされ、ローマ系住民の多くが信仰していたアタナシウス派に改宗した。(55字)

東京大学 2012 2 1a

問題 古代

欧州

フンの最盛期とその後

人類の歴史のなかで、遊牧は農耕とならぶ重要な生活様式のひとつであった。遊牧民、とりわけ軍事力や機動力にすぐれた遊牧民の集団は、広域にわたる遊牧国家の建設や周辺の農耕・定住地域への侵入、大規模な移動などによって大きな役割をはたした。これをふまえて、以下の設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) 中央ユーラシアの草原地帯に出現した遊牧民のなかでも、4世紀になるとフン族が西進し、それとともにユーラシア西部に大変動がおこっている。やがて、5世紀後半には遊牧民エフタルが台頭し、周辺の大国をおびやかした。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 5世紀におけるフン族の最盛期とその後について、2行以内で説明しなさい。

解答例

a) アッティラのもとでパンノニアに大帝国を形成し、西ローマ帝国に侵入したが、カタラウヌムの戦いで敗れ、帝国も瓦解した。(58字)

東京大学 2012 2 1b

問題 古代

西アジア・中央アジア

6世紀半ばのユーラシア

人類の歴史のなかで、遊牧は農耕とならぶ重要な生活様式のひとつであった。遊牧民、とりわけ軍事力や機動力にすぐれた遊牧民の集団は、広域にわたる遊牧国家の建設や周辺の農耕・定住地域への侵入、大規模な移動などによって大きな役割をはたした。これをふまえて、以下の設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) 中央ユーラシアの草原地帯に出現した遊牧民のなかでも、4世紀になるとフン族が西進し、それとともにユーラシア西部に大変動がおこっている。やがて、5世紀後半には遊牧民エフタルが台頭し、周辺の大国をおびやかした。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) エフタルに苦しめられた西アジアの大国を中心とした6世紀半ばの情勢について、2行以内で説明しなさい。

解答例

b) ササン朝のホスロー1世は、東ローマ帝国のユスティニアヌスと抗争する一方、突厥と同盟してエフタルを挟撃し滅ぼした。(56字)

東京大学 2012 2 2a

問題 中世

西アジア

マムルーク

人類の歴史のなかで、遊牧は農耕とならぶ重要な生活様式のひとつであった。遊牧民、とりわけ軍事力や機動力にすぐれた遊牧民の集団は、広域にわたる遊牧国家の建設や周辺の農耕・定住地域への侵入、大規模な移動などによって大きな役割をはたした。これをふまえて、以下の設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) 中央ユーラシアを横断する大草原に住む遊牧トルコ人は、イスラーム是会の拡大とともにこれとさまざまな関係をもつようになり、その一部はやがて西アジアに進出して政権を樹立し、アラブ人やイラン人とならんで重要な役割をはたすことになった。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 9世紀ころになると、アッバース朝カリフの周辺にはトルコ人の姿が目立つようになった。彼らはアラビア語で何とよばれ、カリフは彼らをどのように用いたのか、2行以内で説明しなさい。

解答例

a)トルコ系軍人奴隷のマムルークは、イラン系軍人にかわってカリフの親衛隊の騎馬兵士として、王朝の軍事力の中心となった。(57字)

東京大学 2012 2 3

問題 古代

東アジア

武帝の外政

人類の歴史のなかで、遊牧は農耕とならぶ重要な生活様式のひとつであった。遊牧民、とりわけ軍事力や機動力にすぐれた遊牧民の集団は、広域にわたる遊牧国家の建設や周辺の農耕・定住地域への侵入、大規模な移動などによって大きな役割をはたした。これをふまえて、以下の設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(3) 匈奴以来、モンゴル高原にはしばしば強力な遊牧国家が誕生し、中国の脅威となった。あるものは長城を境にして中国と対峙し、あるものは長城を越えて支配を及ぼすなど、遊牧民族の動静は、中国の歴史に大きな影響を与えつづけた。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 漢の武帝の対匈奴政策と西域政策とのかかわりについて、2行以内で説明しなさい。

(b) 15世紀ながごろにはモンゴルのある部族が明の皇帝を捕虜とする事件がおこった。この部族の名①と事件の名②を、冒頭に①・②を付して記しなさい。

解答例

a)匈奴挾撃のため張騫を大月氏に派遣し西域事情が判明すると、オアシス諸都市を影響下において、東西交易に進出した。(56字)

ローマの公共施設

歴史上、帝国と呼ばれた国家は、多民族、他人種、他宗教を包摂する大きな領域をその版図におさめている場合が多かった。それらの国家の繁栄と衰退、差異や共通性、内外の諸関係について、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) ローマはテヴェレ川のほとりに建設された都市国家にすぎなかったが、紀元前6世紀に、エトルリア人の王を追放して共和政となった。その後、周辺の都市国家を征服してイタリア半島全体を支配し、やがて地中海世界を手中におさめる大帝国となった。ローマが帝政に移行する紀元前後からおよそ200年にわたる時期はパクス=ロマーナとたたえられ、平和が維持された。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) ローマの平和と繁栄を示す都市生活を支えていた公共施設について、2行以内で説明しなさい。

解答例

(a)広場を中心に公衆浴場・円形闘技場の娯楽施設や上下水道などが整備され、都市間を結ぶ道路網を通じて物資が供給された。(56字)

ローマ市民権の拡大

歴史上、帝国と呼ばれた国家は、多民族、他人種、他宗教を包摂する大きな領域をその版図におさめている場合が多かった。それらの国家の繁栄と衰退、差異や共通性、内外の諸関係について、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) ローマはテヴェレ川のほとりに建設された都市国家にすぎなかったが、紀元前6世紀に、エトルリア人の王を追放して共和政となった。その後、周辺の都市国家を征服してイタリア半島全体を支配し、やがて地中海世界を手中におさめる大帝国となった。ローマが帝政に移行する紀元前後からおよそ200年にわたる時期はパクス=ロマーナとたたえられ、平和が維持された。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) ローマの市民権の拡大について、2行以内で説明しなさい。

解答例

前1世紀の同盟市戦争で全イタリアの自由民に付与し、属州上層民にも次第に拡大した。3世紀初に属州の全自由民に付与した。(58字)

明清期の対外貿易

歴史上、帝国と呼ばれた国家は、多民族、他人種、他宗教を包摂する大きな領域をその版図におさめている場合が多かった。それらの国家の繁栄と衰退、差異や共通性、内外の諸関係について、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) 中国の歴代王朝は、周辺諸国との間で儀礼に基づく冊封や朝貢といった関係をもった。しかし、その制度や実態は、王朝ごとに、また相手に応じて、多様であった。とりわけ対外貿易と朝貢との関係には、顕著な変化が見られる。明から清の前期（17世紀末まで）にかけて、対外貿易と朝貢との関係がどのように変化したかについて、海禁政策に着目しながら、4行以内で説明しなさい。

解答例

明初は倭寇対策として民間貿易を禁止する海禁政策をとり、永楽帝は鄭和の遠征で朝貢貿易体制を確立したが、16世紀半ば後期倭寇が活発化すると海禁を緩和した。清初、鄭氏台湾に海禁強化で対抗したが、制圧後は緩和し、海関を設けて貿易を管理した。（116字）

モンロー宣言

歴史上、帝国と呼ばれた国家は、多民族、他人種、他宗教を包摂する大きな領域をその版図におさめている場合が多かった。それらの国家の繁栄と衰退、差異や共通性、内外の諸関係について、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(3) 1898年に勃発したアメリカ-スペイン戦争をきっかけとして、アメリカ合衆国は、(a)モンロー宣言によって定式化された従来の対外政策を脱し、より積極的な対外政策を追求しはじめた。とりわけこの戦争の舞台となったカリブ海や西太平洋、そして中国においては、戦後、(b)アメリカ合衆国の影響力が飛躍的に高まり、帝国主義列強間の力関係にも大きな変化をもたらされた。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) この宣言の内容を、2行以内で説明しなさい。

解答例

アメリカ大陸とヨーロッパ諸国との相互不干渉、南北アメリカ大陸へのヨーロッパ諸国の植民地拡大反対を表明した。（53字）

米西戦争後のアメリカの中国政策

歴史上、帝国と呼ばれた国家は、多民族、他人種、他宗教を包摂する大きな領域をその版図におさめている場合が多かった。それらの国家の繁栄と衰退、差異や共通性、内外の諸関係について、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(3) 1898年に勃発したアメリカ-スペイン戦争をきっかけとして、アメリカ合衆国は、(a) モンロー宣言によって定式化された従来の対外政策を脱し、より積極的な対外政策を追求しはじめた。とりわけこの戦争の舞台となったカリブ海や西太平洋、そして中国においては、戦後、(b) アメリカ合衆国の影響力が飛躍的に高まり、帝国主義列強間の力関係にも大きな変化をもたらされた。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) この戦争後におけるアメリカ合衆国の対中国政策の特徴を、3行以内で説明しなさい。

解答例

(b) ヨーロッパ諸国の中国分割に抗議し、国務長官ジョン=ヘイが門戸開放宣言を発し、中国市場の門戸開放・機会均等を求め参入を図った。また、領土保全を唱えて列強の進出に反対の立場をとった。(89字)

儒学の官学化

アジア各地には古くからそれぞれ独自の知の体系が発展し、それらを支える知識人たちも存在した。そして16世紀以降、ヨーロッパの知識・学問に接するようになるなかで、それらは次第に変容していった。アジア諸地域における知識・学問や知識人の活動に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

(1) 読書人などよばれた中国前近代の知識人にとって、儒学と詩文は必須の教養であった。これらはいずれも、漢代までの知的営為の集積を背後にもつ。この集積は時として想起され、現代に至るまでその時々中国社会に大きな影響を与えることがあった。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) それまで複数の有力な思想の一つにすぎなかった儒学が、他の思想とは異なる特別な地位を与えられたのは、前漢半ばであった。そのきっかけとなった出来事について2行以内で説明しなさい。

解答例

(a) 前漢の武帝時代、董仲舒の建議に基づき、五経を教授する五経博士が置かれるなど、儒学を正統教学とする道が開かれた。(56字)

東京大学 2010 2 1b

問題 古代

東アジア

古文復興運動

アジア各地には古くからそれぞれ独自の知の体系が発展し、それらを支える知識人たちも存在した。そして16世紀以降、ヨーロッパの知識・学問に接するようになるなかで、それらは次第に変容していった。アジア諸地域における知識・学問や知識人の活動に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

(1) 読書人などよばれた中国前近代の知識人にとって、儒学と詩文は必須の教養であった。これらはいずれも、漢代までの知的営為の集積を背後にもつ。この集積は時として想起され、現代に至るまでその時々中国社会に大きな影響を与えることがあった。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) 唐代に入ると詩文には様々な変化が起こった。文章については唐代中期以降、漢代以前に戻ろうとする復古的な気運が生まれた。唐代におけるその気運について2行以内で説明しなさい。

解答例

(b)六朝以来の形式美を重んじる四六駢儷体を批判し、漢以前の個性的で簡素な古文の復興をめざす運動を、韓愈や柳宗元が進めた。(59字)

東京大学 2010 2 2a

問題 近世

東アジア

朝鮮の文化事業

アジア各地には古くからそれぞれ独自の知の体系が発展し、それらを支える知識人たちも存在した。そして16世紀以降、ヨーロッパの知識・学問に接するようになるなかで、それらは次第に変容していった。アジア諸地域における知識・学問や知識人の活動に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

(2)14世紀半ば、東アジアは元の衰退にともない一時的に混乱した。しかし、1368年に明が建国されると、再び新たな安定の時期を迎え、知識人たちも活発に活動した。1392年に成立した朝鮮(李氏朝鮮)も、明の諸制度を取り入れながら繁栄し、知識人による文化事業が盛んにおこなわれた。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 15世紀前半の朝鮮でなされた特徴的な文化事業について2行以内で説明しなさい。

解答例

(a)銅活字が実用化し、鑄字所が設置されて出版事業が振興した。世宗によって朝鮮の民族文字である訓民正音が制定された。(56字)

徐光啓の活動

アジア各地には古くからそれぞれ独自の知の体系が発展し、それらを支える知識人たちも存在した。そして16世紀以降、ヨーロッパの知識・学問に接するようになるなかで、それらは次第に変容していった。アジア諸地域における知識・学問や知識人の活動に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

(2)14世紀半ば、東アジアは元の衰退にともない一時的に混乱した。しかし、1368年に明が建国されると、再び新たな安定の時期を迎え、知識人たちも活発に活動した。1392年に成立した朝鮮(李氏朝鮮)も、明の諸制度を取り入れながら繁栄し、知識人による文化事業が盛んにおこなわれた。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) 明の末期になると、中国の知識人たちは、イエズス会宣教師がもたらしたヨーロッパの科学技術に強い関心を示した。その代表的な人物である徐光啓の活動について2行以内で説明しなさい。

解答例

(b)マテオ=リッチやアダム=シャルと協力し、『幾何原本』や『崇禎暦書』を作成した。また『農政全書』も著した。(54字)

ワッハーブ派

アジア各地には古くからそれぞれ独自の知の体系が発展し、それらを支える知識人たちも存在した。そして16世紀以降、ヨーロッパの知識・学問に接するようになるなかで、それらは次第に変容していった。アジア諸地域における知識・学問や知識人の活動に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

(3)18世紀後半以降、ヨーロッパの侵略や圧力にさらされるようになると、アジアの知識人は自国の文化の再生や、政治・経済の再建を目指して改革運動をはじめた。かれらは、ヨーロッパの知識を吸収しつつ近代化・西欧化を推進しようとするグループと、逆に伝統の本来の姿を復活させようとするグループとに分かれて論争し合い、政治運動も展開した。これらの改革運動に関する以下の(a)~(c)の問いに、冒頭に(a)・(c)を付して答えなさい。

(a) 西アジアのアラビア半島では、ワッハーブ派が勢力を拡大した。この運動について3行以内で説明しなさい。

解答例

(a)ムハンマドの時代への復古を唱え、神秘主義や聖者崇拝を否定し、サウード家と提携してアラビア半島に王国を建国した。オスマン帝国を批判し、アラブ民族主義の成立にも影響した。(83字)

インドのヒन्दウー教改革運動

アジア各地には古くからそれぞれ独自の知の体系が発展し、それらを支える知識人たちも存在した。そして16世紀以降、ヨーロッパの知識・学問に接するようになるなかで、それらは次第に変容していった。アジア諸地域における知識・学問や知識人の活動に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

(3)18世紀後半以降、ヨーロッパの侵略や圧力にさらされるようになると、アジアの知識人は自国の文化の再生や、政治・経済の再建を目指して改革運動をはじめた。かれらは、ヨーロッパの知識を吸収しつつ近代化・西欧化を推進しようとするグループと、逆に伝統の本来の姿を復活させようとするグループとに分かれて論争し合い、政治運動も展開した。これらの改革運動に関する以下の(a)~(c)の問いに、冒頭に(a)・(c)を付して答えなさい。

(b) インドでは、ラーム=モーハン=ローイが、女性に対する非人道的なヒन्दウー教の風習を批判するパンフレットを刊行するなどして、近代主義の立場から宗教・社会改革運動を進めた。この風習を何というか答えなさい。

解答例

サティ

洋務運動

アジア各地には古くからそれぞれ独自の知の体系が発展し、それらを支える知識人たちも存在した。そして16世紀以降、ヨーロッパの知識・学問に接するようになるなかで、それらは次第に変容していった。アジア諸地域における知識・学問や知識人の活動に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

(3)18世紀後半以降、ヨーロッパの侵略や圧力にさらされるようになると、アジアの知識人は自国の文化の再生や、政治・経済の再建を目指して改革運動をはじめた。かれらは、ヨーロッパの知識を吸収しつつ近代化・西欧化を推進しようとするグループと、逆に伝統の本来の姿を復活させようとするグループとに分かれて論争し合い、政治運動も展開した。これらの改革運動に関する以下の(a)~(c)の問いに、冒頭に(a)・(c)を付して答えなさい。

(b) 中国では、曾国藩・李鴻章などの官僚グループが洋務運動とよばれる改革を進めた。この運動の性格について3行以内で説明しなさい。

解答例

(c)中体西用論に基づき、中国の伝統的儒教思想による皇帝専制を根本としながら、西洋技術の導入をはかる近代化運動で、漢人官僚を中心に軍需工場や紡績工場の設立、鉱山開発などが進められた。(88字)

集住

人口集中地としての都市は、古来、一定地域の中心として人々の活動の重要な場であり続けてきた。それらの都市は、周囲の都市や農村との関係に応じて、都市ごとに異なる機能を果たしてきたが、ある特定の地域や時代に共通する外観や特徴を示す場合もある。以上の点をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) (a)紀元前8世紀のエーゲ海周辺では、ポリスとよばれる都市が古代ギリシア人によって形づくられた。ポリスはその後、地中海・黒海沿岸地域にひろがり、その数は1000を超え、ギリシア古典文化を生み出す基盤となった。ポリスはそれぞれが独立した都市国家であったため、ギリシア人は政治的には分裂状態にあったが、他方、(b)文化的には一つの民族であるという共通の認識をもっていた。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) ポリスの形成過程を、2行以内で説明しなさい。

解答例

王族や有力貴族の指導のもと、軍事的・経済的要地であるアクロポリスの下に人々が集住し、周辺の農村部も統合して成立した。(58字)

ギリシア人の同朋意識

人口集中地としての都市は、古来、一定地域の中心として人々の活動の重要な場であり続けてきた。それらの都市は、周囲の都市や農村との関係に応じて、都市ごとに異なる機能を果たしてきたが、ある特定の地域や時代に共通する外観や特徴を示す場合もある。以上の点をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) (a)紀元前8世紀のエーゲ海周辺では、ポリスとよばれる都市が古代ギリシア人によって形づくられた。ポリスはその後、地中海・黒海沿岸地域にひろがり、その数は1000を超え、ギリシア古典文化を生み出す基盤となった。ポリスはそれぞれが独立した都市国家であったため、ギリシア人は政治的には分裂状態にあったが、他方、(b)文化的には一つの民族であるという共通の認識をもっていた。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b)この共通の認識を支えた諸要素を、2行以内で説明しなさい。

解答例

オリンポスの神々への信仰の共有と、ホメロスの文学や共通する言語でヘレネスと自らを称し、他者をバルバロイとして区別した。(59字)

東京大学 2009 2 2a

問題 古代

東アジア

殷の統治体制

人口集中地としての都市は、古来、一定地域の中心として人々の活動の重要な場であり続けてきた。それらの都市は、周囲の都市や農村との関係に応じて、都市ごとに異なる機能を果たしてきたが、ある特定の地域や時代に共通する外観や特徴を示す場合もある。以上の点をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) 中国においては、新石器時代以来、城壁都市が建設され、やがて君主をいただく国となった。そうした国々を従えた大国のいくつかは、王朝として知られている。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 最古とされる王朝の遺跡が20世紀初頭に発掘された。そこで出土した記録は、王朝の政治がどう行われたかを証言している。その政治の特徴を2行以内で説明しなさい。

解答例

殷王は亀甲・獣骨を用いた卜占により、神意に基づく神権政治を行い、強大な宗教的権威として他の邑を支配下に置いた。(55字)

東京大学 2009 2 2b

問題 古代

東アジア

春秋時代

人口集中地としての都市は、古来、一定地域の中心として人々の活動の重要な場であり続けてきた。それらの都市は、周囲の都市や農村との関係に応じて、都市ごとに異なる機能を果たしてきたが、ある特定の地域や時代に共通する外観や特徴を示す場合もある。以上の点をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) 中国においては、新石器時代以来、城壁都市が建設され、やがて君主をいただく国となった。そうした国々を従えた大国のいくつかは、王朝として知られている。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) その後、紀元前11世紀に華北に勢力をのびた別の王朝は、首都の移転により時代区分がなされる。移転前と移転後の首都名を挙げ、移転にともなう政治的变化を2行以内で説明しなさい。

解答例

周は鎬京から洛邑に遷都した。周王を中心とする封建制から、有力諸侯が覇者として尊王攘夷を唱え政治を主導する体制となった。(59字)

東京大学 2009 2 3a

問題 中世

欧州

東方貿易

人口集中地としての都市は、古来、一定地域の中心として人々の活動の重要な場であり続けてきた。それらの都市は、周囲の都市や農村との関係に応じて、都市ごとに異なる機能を果たしてきたが、ある特定の地域や時代に共通する外観や特徴を示す場合もある。以上の点をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

西ヨーロッパでは、11世紀ころから商業活動が活発化し、さびれていた古い都市が復活するとともに、新しい都市も生まれた。(a)地中海沿岸や北海・バルト海沿岸の都市のいくつかは、遠隔地交易によって莫大な富を蓄積し、経済的繁栄を享受することになった。(b)また、強い政治力をもち独立した都市のなかには、その安全と利益を守るために、都市どうしで同盟を結ぶところも出てきた。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 地中海における遠隔地交易を代表する東方貿易について、2行以内で説明しなさい。

解答例

北イタリア都市がビザンツ帝国やイスラーム勢力と行った貿易で、毛織物や銀を輸出し、絹織物や香辛料などの奢侈品を輸入した。(59字)

東京大学 2009 2 3b

問題 中世

欧州

ロンバルディア同盟

人口集中地としての都市は、古来、一定地域の中心として人々の活動の重要な場であり続けてきた。それらの都市は、周囲の都市や農村との関係に応じて、都市ごとに異なる機能を果たしてきたが、ある特定の地域や時代に共通する外観や特徴を示す場合もある。以上の点をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

西ヨーロッパでは、11世紀ころから商業活動が活発化し、さびれていた古い都市が復活するとともに、新しい都市も生まれた。(a)地中海沿岸や北海・バルト海沿岸の都市のいくつかは、遠隔地交易によって莫大な富を蓄積し、経済的繁栄を享受することになった。(b)また、強い政治力をもち独立した都市のなかには、その安全と利益を守るために、都市どうしで同盟を結ぶところも出てきた。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) 北イタリアに結成された都市同盟について、2行以内で説明しなさい。

解答例

神聖ローマ皇帝のイタリア政策に対抗するため、ミラノを盟主にロンバルディア同盟が結成され、自治権を守ろうとした。(55字)

ロシアの対中国南下

人類の歴史において、領土およびその境界は、しばしば政治的な争いや取引の対象となってきた。そして、過去に決められた領土や境界のあり方は、さまざまな形で現代世界の成り立ちに影を投げかけている。領土と境界の画定をめぐる歴史上の出来事に関する以下の三つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(1)1960年代、ソヴィエト連邦と中華人民共和国との間で政治的な対立が深まり、1969年には、アムール川（黒竜江）の支流ウスリー川にある中洲の領有をめぐる武力衝突が発生した。この両河川流域の領土帰属は、19世紀半ばにロシアが清と結んだ二つの条約で定められていた。これら二つの条約が結ばれた経緯とその内容について、4行以内で説明しなさい。

解答例

アムール川流域の探査を進めたロシアは、アロー戦争の混乱に乗じて1858年にアイグン条約を結び、アムール川以北を獲得し、ウスリー川以東の沿海州を共同管理地とした。さらに1860年にはアロー戦争の調停を口実に北京条約を結んで沿海州を獲得した。（115字）

ローザンヌ条約と英仏委任統治領

人類の歴史において、領土およびその境界は、しばしば政治的な争いや取引の対象となってきた。そして、過去に決められた領土や境界のあり方は、さまざまな形で現代世界の成り立ちに影を投げかけている。領土と境界の画定をめぐる歴史上の出来事に関する以下の三つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(2)ゴラン高原をめぐるイスラエルとシリアの係争は、高原の西の境界に関する見解の不一致によっても複雑化している。イスラエルは1923年に定められた境界を、シリアは1967年6月4日時点での実効的な境界を主張している。この背景には、乾燥地帯では特に切実な水資源の奪い合いという問題もある。下線部(a)・(b)を付して答えなさい。

(a)この境界は、当時のいかなる領域間の境界として定められたものか、2行以内で説明しなさい。

解答例

英仏が旧オスマン帝国のアラブ人地域を委任統治領としたうちフランスのシリアとイギリスのパレスチナとの境界であった。（56字）

第三次中東戦争

人類の歴史において、領土およびその境界は、しばしば政治的な争いや取引の対象となってきた。そして、過去に決められた領土や境界のあり方は、さまざまな形で現代世界の成り立ちに影を投げかけている。領土と境界の画定をめぐる歴史上の出来事に関する以下の三つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(2)ゴラン高原をめぐるイスラエルとシリアの係争は、高原の西の境界に関する見解の不一致によっても複雑化している。イスラエルは1923年に定められた境界を、シリアは1967年6月4日時点での実効的な境界を主張している。この背景には、乾燥地帯では特に切実な水資源の奪い合いという問題もある。下線部(a)・(b)を付して答えなさい。

(b)この翌日に勃発した戦争について、2行以内で説明しなさい。

解答例

第3次中東戦争でイスラエルが圧勝し、ガザ地区とヨルダン川西岸、エジプト領シナイ半島とシリア領ゴラン高原を占領した。(57字)

アルザスの帰属の変遷

問(3)人類の歴史において、領土およびその境界は、しばしば政治的な争いや取引の対象となってきた。そして、過去に決められた領土や境界のあり方は、さまざまな形で現代世界の成り立ちに影を投げかけている。領土と境界の画定をめぐる歴史上の出来事に関する以下の三つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(3)ヨーロッパ連合（EU）の直接の起源となったヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC)は、ドイツとフランスの間の領土と資源をめぐる長年にわたる争いの解消と永続的な和解の構築を目指していた。ヨーロッパ議会をはじめとして和解を象徴する諸機関が存在しているアルザスの領有も、たびたび独仏対立の一因となってきた。このアルザスの1648年から第一次世界大戦後に至る帰属の変遷について、4行以内で説明しなさい。

解答例

神聖ローマ帝国に属したが、三十年戦争のウェストファリア条約でフランス領となった。フランス革命時にフランスへの帰属意識が高まったが、普仏戦争においてロレーヌとともにドイツ領となった。第一次世界大戦後ヴェルサイユ条約でフランスに復帰した。

古代オリエントの暦

歴史上、人々はさまざまな暦を用いてきた。暦は支配権力や宗教などと密接に関連して、それらの地域的な広がりを反映することが多かった。また、いくつかの暦を併用する社会も少なくない。歴史上の暦に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(1)西アジアにおける暦の歴史を概観すると、(a)古代メソポタミアや古代エジプトで暦の発達が見られ、のちにヨーロッパへ多大な影響を与えた。また、(b)7世紀にイスラーム教徒は独自の暦を作り出し、その暦は他の暦と併用されつつ広く用いられてきた。近代になって、西アジアの多くの地域には西暦も導入され、複数の暦が併存する状態となっている。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 古代メソポタミアと古代エジプトにおける暦とその発達の背景について、3行以内で説明しなさい。

解答例

両地域とも灌漑農業の必要から暦が発達したが、占星術を背景に太陰暦が維持されたメソポタミアに対し、定期的なナイル川の氾濫を農業基盤としたエジプトではより正確な太陽暦が発達した。(87字)

イスラームの暦

歴史上、人々はさまざまな暦を用いてきた。暦は支配権力や宗教などと密接に関連して、それらの地域的な広がりを反映することが多かった。また、いくつかの暦を併用する社会も少なくない。歴史上の暦に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(1)西アジアにおける暦の歴史を概観すると、(a)古代メソポタミアや古代エジプトで暦の発達が見られ、のちにヨーロッパへ多大な影響を与えた。また、(b)7世紀にイスラーム教徒は独自の暦を作り出し、その暦は他の暦と併用されつつ広く用いられてきた。近代になって、西アジアの多くの地域には西暦も導入され、複数の暦が併存する状態となっている。下線部(a)・(b)に対応する以下の問いに、(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) イスラーム教徒独自の暦が、他の暦と併用されることが多かった最大の理由は何か。2行以内で説明しなさい。

解答例

イスラーム暦は純粹太陰暦で季節がずれるため、イスラーム世界が農業地域にも拡大すると、他の暦と併用する必要が生じた。(57字)

東京大学 2007 2 2a

問題 近代

欧州

革命暦とナポレオン

歴史上、人々はさまざまな暦を用いてきた。暦は支配権力や宗教などと密接に関連して、それらの地域的な広がりを反映することが多かった。また、いくつかの暦を併用する社会も少なくない。歴史上の暦に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) 現在、私たちが用いている西暦は、紀元前1世紀に古代ローマで作られ、その後ローマ教皇により改良された暦を基礎としている。しかし、ヨーロッパにおいても、時代や地域によって異なる暦が用いられており、しばしば複数の暦が併用された。以下の問いに、(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) フランスでは、18世紀末と19世紀初めに暦の制度が変更された。これらの変更について、2行以内で説明しなさい。

解答例

国民公会は反教会と啓蒙主義の立場でグレゴリウス暦を廃止し革命暦を採用したが、ナポレオンは教会と和解し旧暦に復活した。

東京大学 2007 2 2b

問題 現代

欧州

ロシア革命と暦

歴史上、人々はさまざまな暦を用いてきた。暦は支配権力や宗教などと密接に関連して、それらの地域的な広がりを反映することが多かった。また、いくつかの暦を併用する社会も少なくない。歴史上の暦に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) 現在、私たちが用いている西暦は、紀元前1世紀に古代ローマで作られ、その後ローマ教皇により改良された暦を基礎としている。しかし、ヨーロッパにおいても、時代や地域によって異なる暦が用いられており、しばしば複数の暦が併用された。以下の問いに、(a)・(b)を付して答えなさい。

(b) ロシアでも、20世紀初めに暦の制度が変更された。この変更について、1行以内で説明しなさい。

解答例

ロシア革命期にユリウス暦に代えてグレゴリウス暦を採用した。(29字)

元～清の改暦

歴史上、人々はさまざまな暦を用いてきた。暦は支配権力や宗教などと密接に関連して、それらの地域的な広がりを反映することが多かった。また、いくつかの暦を併用する社会も少なくない。歴史上の暦に関する以下の3つの設問に答えなさい。解答は、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(3) 中国では古くから、天体観測に基づく暦が作られていたが、支配者の権威を示したり、日食など天文事象の予告の正確さを期するため、暦法が改変されていった。元～清代の中国における暦法の変遷について、4行以内で説明しなさい。

解答例

元代には郭守敬がイスラーム天文学を取り入れて授時暦を作成した。明末にはイエズス会士のアダム＝シャルがヨーロッパの暦法を中国に紹介し、徐光啓と協力して『崇禎暦書』を著した。清はアダム＝シャルやフェルビーストを登用し、暦を改定させた。

(117字)

インドのイスラーム化

インド洋世界の中心に位置するインド亜大陸は、古来、地中海から東南アジア・中国までを結ぶ東西海上交通の結節点をなし、また、中央ユーラシアとも、南北にのびる陸のルートを通じてつながりを持ち続けてきた。以上の背景をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答にあたっては、解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) インド亜大陸へのイスラームの定着は海陸両方の経路から進行した。そのうち、カイバル峠を通るルートによる定着過程の、10世紀末から16世紀前半にかけての展開を、政治的側面と文化的側面の双方にふれながら4行以内で説明しなさい。

解答例

アフガニスタンからガズナ朝やゴール朝が侵入してイスラーム化の端緒を開き、13世紀初頭にデリー＝スルタン朝が成立した。16世紀にティムールの子孫バーブルが侵入してムガル帝国を建国した。この間スーフィーがバクティ運動と交流しながら布教に活躍した。

(119字)

インド植民地化の開始

インド洋世界の中心に位置するインド亜大陸は、古来、地中海から東南アジア・中国までを結ぶ東西海上交通の結節点をなし、また、中央ユーラシアとも、南北にのびる陸のルートを通じてつながりを持ち続けてきた。以上の背景をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答にあたっては、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(2) インド洋地域で、イギリスやフランスの東インド会社は、インド綿布を中心にした貿易活動から植民地支配へと進んだ。18世紀半ば頃のイギリス東インド会社によるインドの植民地化過程を、フランスとの関係に留意して4行以内で説明しなさい。

解答例

ベンガル太守と結んだフランスをプラッシーの戦いで撃破し、南部でもカーナティック戦争で勝利してフランスに対し優位に立った。一方、貿易拠点のカルカッタを中心にベンガルへの関与を強め、ムガル皇帝から徴税権を獲得したことで植民地支配を開始した。

(118字)

エジプト近現代史

インド洋世界の中心に位置するインド亜大陸は、古来、地中海から東南アジア・中国までを結ぶ東西海上交通の結節点をなし、また、中央ユーラシアとも、南北にのびる陸のルートを通じてつながりを持ち続けてきた。以上の背景をふまえて、次の3つの設問に答えなさい。解答にあたっては、解答欄（口）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(3) ヨーロッパ列強にとって、インドにつらなるルートの重要性が増していくなかで、ヨーロッパとインド洋を結ぶ要衝であるエジプトは、次第に国際政治の焦点となっていった。18世紀末から20世紀中葉にいたるエジプトをめぐる国際関係について、以下の語句すべてを少なくとも1回用いて、4行以内で説明しなさい。

ナポレオン スエズ運河 ナセル

解答例

フランスのナポレオンは英印航路遮断のためエジプトに遠征した。スエズ運河完成後、アラビイ運動を鎮圧したイギリスが事実上の保護国とし、独立後も英仏が運河の権益を確保したが、ナセルの国有化宣言から第二次中東戦争となり、米ソの批判を受け撤退した。

(120字)

ガンダーラ美術の特徴

ギリシア人はみずからをヘレネスとよび、その国土をヘラスとよんでいた。アレクサンドロス大王の東征以後、ギリシア風の文化・生活様式はユーラシア西部に広く普及し、その後の世界にも大きな足跡を残している。このヘレニズムとよばれる文明の影響に関連する以下の3つの問いに答えなさい。解答は解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(1)オリエントあるいは西アジアに浸透したヘレニズム文明は、さらにインドにも影響を及ぼしている。とりわけ、1世紀頃から西北インドにおいてヘレニズムの影響を受けながら発達した美術には注目すべきものがある。その美術の特質について、3行以内で説明しなさい。

解答例

西北インドで発達したガンダーラ美術は、現世的かつ人間的なギリシアの宗教観にもとづき制作されたギリシア神像彫刻の影響を受け、ギリシア風の仏像の制作を開始した写実的な仏教美術である。

ヘレニズム文明のイスラーム受容

ギリシア人はみずからをヘレネスとよび、その国土をヘラスとよんでいた。アレクサンドロス大王の東征以後、ギリシア風の文化・生活様式はユーラシア西部に広く普及し、その後の世界にも大きな足跡を残している。このヘレニズムとよばれる文明の影響に関連する以下の3つの問いに答えなさい。解答は解答欄（ロ）を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(2)ギリシア語が広く共通語として受容されたことは、その後の古代地中海世界における学問・思想のめざましい発展を促すことになった。それらはやがてイスラーム世界にも継承されている。このイスラーム世界への継承の歴史について、中心となった都市をとりあげながら、3行以内で説明しなさい。

解答例

アレクサンドリアなどで研究され、ササン朝でも保存されたギリシア語文献がイスラーム世界に継承され、アッバース朝治下のバグダードや後ウマイヤ朝治下のコルドバでアラビア語へ翻訳された。

イスラーム文化の西ヨーロッパ受容

ギリシア人はみずからをヘレネスとよび、その国土をヘラスとよんでいた。アレクサンドロス大王の東征以後、ギリシア風の文化・生活様式はユーラシア西部に広く普及し、その後の世界にも大きな足跡を残している。このヘレニズムとよばれる文明の影響に関連する以下の3つの問いに答えなさい。解答は解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記しなさい。

問(3)ビザンツ世界やイスラーム世界と異なり、中世の西ヨーロッパは古代ギリシアやヘレニズムの文明をほとんど継承しなかった。ギリシア・ヘレニズムの学術文献が西ヨーロッパに広く知られるようになるのは、12世紀以降である。これらの学術文献はどのようにして西ヨーロッパに伝わったのか。3行以内で説明しなさい。

解答例

十字軍やレコンキスタを背景に、イベリア半島のトレドやノルマン人が征服したシチリア島などでアラビア語に翻訳されたヘレニズムの学術文献やアラビア語の注釈書が、ラテン語に翻訳された。(88字)

ユダヤ教の成立

地中海東岸からアラビア半島にかけての地域で、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教という3つの一神教が誕生した。これらの宗教と西アジア・地中海沿岸地域の国家や社会は、密接な関わりを持った。このことに関連する以下の3つの問いに答えよ。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記せ。

問(1)新王国時代のエジプトから、ヘブライの民とよばれる人々は、モーセに率いられて脱出し、やがてパレスティナに定住の地を見出したという。前10世紀頃、ソロモン王の時代には栄華をきわめた。その後の数百年間に、ヘブライ人は独自のユダヤ教を築きあげた。その成立過程について、彼らの王国の盛衰との関わりを考慮しながら、4行以内で説明せよ。

解答例

ヘブライ人は、モーセの出エジプト伝承によって唯一神ヤーヴェの選民であると自覚し、ソロモン王時にヤーヴェの大神殿を建造した。新バビロニアにユダ王国が滅ぼされ、バビロン捕囚が行われると、預言者のもとで救世主信仰を育み、解放後、教団を組織した。

東京大学 2004 2 2

問題 中世

欧州

ビザンツと神聖ローマの宗教と国家

地中海東岸からアラビア半島にかけての地域で、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教という3つの一神教が誕生した。これらの宗教と西アジア・地中海沿岸地域の国家や社会は、密接な関わりを持った。このことに関連する以下の3つの問いに答えよ。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記せ。

問(2)キリスト教世界は8世紀から11世紀にかけて東西の教会に2分された。その2つの教会のいずれか一方と関わりの深いビザンツ帝国と神聖ローマ帝国とでは、皇帝と教会指導者との関係が大きく異なっている。11世紀後半を念頭において、その違いを4行以内で説明せよ。

解答例

ビザンツ帝国では、皇帝がコンスタンティノープル大司教の任免権を握り、皇帝が教会を支配した。それに対し俗権を担う神聖ローマ皇帝と、教権を担うローマ教皇がキリスト教共同体の首位権をめぐる対立し、聖職者の任命をめぐる叙任権闘争を展開していた。

東京大学 2004 2 3

問題 中世

西アジア

カリフ権

地中海東岸からアラビア半島にかけての地域で、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教という3つの一神教が誕生した。これらの宗教と西アジア・地中海沿岸地域の国家や社会は、密接な関わりを持った。このことに関連する以下の3つの問いに答えよ。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記せ。

問(3)カリフとは「代理人」の意味で、預言者ムハンマドの没後、その代理としてムスリム共同体(ウンマ)の指導者となった人のことを指す。単一のカリフをムスリム共同体全体の指導者とする考えは近代に至るまで根強いが、政治権力者としてのカリフの実態は初期と後代では異なっていた。7世紀前半と11世紀後半を比較し、その違いを3つあげて4行以内で説明せよ。

解答例

7世紀前半のカリフはウンマの同意によって選出された単一の指導者であり、政治的権限を有していた。11世紀後半は世襲制で、複数のカリフが分立した。アッバース朝では、政治的権限をスルタンの称号とともにセルジューク朝に与え、宗教的権威のみとなった。

東京大学 2003 2

問題 中世・近世

欧州

イタリア戦争の背景

イタリア戦争はルネサンス期に半世紀以上にわたってくりひろげられた。この戦争の誘因となったイタリアの政治状況について2行以内で記せ。

解答例

イタリアは北部の都市共和国、中部のローマ教皇領、南部の両シチリア王国と分裂割拠し、相互に抗争を展開していた。(54字)

東京大学 2002 2 5

問題 近世

南アジア

ムガル帝国の宗教政策

次に述べるX, Y, Zは、19世紀以降まで数世紀にわたり存続したアジアの大王朝である。これらの王朝には、独自性と共通性がみられたが、それらに関し、以下の(1)~(12)の設問をよく読み、各設問に答えよ。
(B)各王朝は、被支配者の信仰や宗教や慣習について、時には融和策で、時には弾圧策で臨んだ。
問(5)Yは、16~17世紀の間に宗教政策を大きく変えた。その変化を、関係する二人の皇帝の名を用い、3行(90字)以内で説明せよ。

解答例

16世紀後半のアクバル帝は、ヒンドゥー教に対して融和政策をとり、人頭税のジズヤも廃止した。17世紀のアウラングゼーブ帝は、スンニ派の強硬政策をとり、異教徒に対するジズヤを復活した。(88字)

東京大学 2002 2 6

問題 近世

西アジア

オスマン帝国の異教徒処遇制度

次に述べるX, Y, Zは、19世紀以降まで数世紀にわたり存続したアジアの大王朝である。これらの王朝には、独自性と共通性がみられたが、それらに関し、以下の(1)~(12)の設問をよく読み、各設問に答えよ。
(B)各王朝は、被支配者の信仰や宗教や慣習について、時には融和策で、時には弾圧策で臨んだ。
問(6)Zには、異教徒処遇の制度があった。その通称を記し、特徴を2行(60字)以内で説明せよ。

解答例

ミット制。支配下の異民族に対し、信仰別の共同体を組織させ、信仰組織を通じた支配を行う一方、自治を容認した。(54字)

問題 近世

西アジア・南アジア

ジャーギール制とティマール制

次に述べる X, Y, Z は, 19世紀以降まで数世紀にわたり存続したアジアの大王朝である。これらの王朝には, 独自性と共通性がみられたが, それらに関し, 以下の(1)~(12)の設問をよく読み, 各設問に答えよ。

(C) 3 王朝には, それぞれ少数民族が広大な領域を支配するという共通性があった。

問(8) Y と Z には, それぞれジャーギール制, ティマール制と呼ばれる類似の制度がみられた。両者の共通の特徴を 2 行 (60 字) 以内で説明せよ。

解答例

支配層に属する軍人に土地の徴税権を与え, その収入で軍馬の保持と軍役を義務づけて軍の維持を図った。(48字)

問題 現代

欧州・東アジア

日本の国際連盟脱退

20世紀の戦争と平和に関する以下の(A)~(C)の文を読み, 設問(1)~(9)に答えよ。

(A) 20世紀前半には, 国際平和の確立や新しい国際秩序のための原則が, 欧米諸国によって表明された。次の a~c は, それに関連する宣言や条約の抜粋である。

a. 「すべての国家に政治的独立と領土保全を相互に保障する目的で, 全般的な諸国家の①連合組織が結成されなければならない」

問(1) 日本は下線部①の連合組織に参加し, 後に脱退した。脱退の経緯を 2 行 (60 字) 以内で記せ。

解答例

日本は満州事変によって満州国を建国し政府が承認したが, 国際連盟はリットン調査団の報告に基づいて満州国の承認を拒絶した。(59字)

第一次中東戦争（パレスティナ戦争）

20世紀の戦争と平和に関する以下の(A)～(C)の文を読み、設問(1)～(9)に答えよ。

(B) 20世紀の西アジアの歴史をふりかえてみると、現代の中東諸国の原型は第一次世界大戦後にできあがったことがわかる。しかし、戦後イギリスやフランスの委任統治下におかれたアラブ地域では、アラブ人の意志とは無関係に将来の国境線が画定され、とりわけイギリス統治下のパレスティナには多くの④ユダヤ人が入植してアラブ人の生存を脅かした。その結果として起こった⑤一連の戦争と紛争は、この地域の人々にはかりしれない打撃を与えた。1993年9月、紛争の当事者はワシントンで⑥歴史的な協定を結んだが、中東和平への道はなお容易ではない。問(5) 下線部⑤の戦争のなかには、1948年5月に始まった第一次中東戦争（パレスティナ戦争）がある。この戦争の結果どのようなことが起こったか、2行（60字）以内で説明せよ。

解答例

勝利したイスラエルはガザ地区とヨルダン川西岸を除くパレスチナを占領した。一方で土地を奪われたパレスチナ難民が発生した。（59字）

ヨーロッパ勢力の世界進出とヨーロッパ社会の変化

次の図Aは、ヨーロッパ各地の生活物資の代表としての小麦の価格を集成したグラフである。期間は大航海時代に先立つ1450年から産業革命に先立つ1750年まで、縦軸は小麦100リットル当たりの価格を銀の重量（グラム）であらわす（対数目盛り）。ヨーロッパの最高価格が網のかかった帯の上限に、最低価格が下端にあらわれ、この帯のなかにすべての地域の小麦価格がおさまる。15世紀から18世紀にかけて外の世界と交渉しつつ大きく成長したヨーロッパ経済の動向を考えながら、このグラフを読みとり、次の設問に答えよ。

問(2) 1450年のヨーロッパにおける小麦の最高価格と最低価格との比は6.8であったが、1750年の最高価格と最低価格との比は1.8に縮小している。このことの背景にはどのような変化があったか。2行以内（60字）で記せ。

問(3) グラフ内の折れ線は、地中海沿岸a、北西ヨーロッパb、北東ヨーロッパc、の代表的な都市における価格変動をしめす。中世末から近代にかけて経済活動の中心が移動したこと、aとbは17世紀前半に交差して相対的位置が交代していること、

cはほとんど常にヨーロッパの最低値に近いことに注目しながら、この期間のヨーロッパの商工業と農業をめぐる地域間について、3行以内（90字）で記せ。

解答例

(2) 15世紀は各地域に相対的に自立した商業圏が存在したが、18世紀には北西ヨーロッパを中心にヨーロッパ市場の一体化が進んだ。

(3) 新大陸貿易やアジア貿易の進展により北西ヨーロッパの商工業が発展し、地中海沿岸都市の経済的地位が相対的に低下した。北東ヨーロッパは穀物・木材の供給地として北西ヨーロッパに従属した。（86字）

問題 近代

南アジア

近代のインドの貿易

以下の(A)～(C)は15世紀～20世紀の経済史に関する問題である。これを読んで、設問(1)～(8)に答えよ。

19～20世紀の南アジアや東南アジアでは、生産と交易の形態は大きく変動した。

次の表Aのa～dは、1828～60年度のインドの主な貿易相手国である。数値は、各相手国に関してインドの商品輸出額からインドへの商品輸入額を差し引いた貿易収支で、マイナスは輸入超過を示す。この表のaとbの二つの国との貿易収支に関して、この期間に見られる顕著な変動を生じさせた理由はなにか。a、bそれぞれの国の名称と主な取引商品に言及しつつ、4行（120字）以内で記せ。

解答例

aはイギリスで、機械制綿布の輸入が、自由貿易体制の確立とともに増大した。bは中国であり、アヘンの輸出が中心で、1839年には清のアヘン取締りで激減したが、アヘン戦争後増大し、1860年アロー戦争後の北京条約でアヘン貿易が公認されるとさらに増大した。

(120字)

問題 近世

東アジア

台湾支配の変遷

以下の(A)～(C)は15世紀～20世紀の経済史に関する問題である。これを読んで、設問(1)～(8)に答えよ。

(C)16世紀～19世紀の東アジアや東南アジアでは、様々な勢力によって交易の拠点が設けられ、それぞれ特色ある貿易が行われた。

地図上のb島（台湾）は17世紀に経済上、軍事上の要地として注目され、諸勢力の争奪の的となった。17世紀にこの島を支配した三つの主要な勢力に言及しつつ、その勢力の交替の過程を3行以内（90字）で述べよ。

解答例

まずオランダが日中中継貿易の拠点として支配したが、復明を唱える鄭成功がオランダを追放し、反清活動の拠点とした。しかし、三藩の乱を鎮圧した清朝によって1683年に征服された。（84字）

叙任権闘争

ヨーロッパやアジアでは、キリスト教やイスラムの改革運動が政治や社会の動向に大きな影響を及ぼしてきた。これらの運動に関する以下の(A)~(C)の文章を読み、設問(1)~(7)に答えよ。設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(7)の番号を付して記せ。

(A) 西欧では、10~11世紀にかけて、フランスの修道院を中心に、カトリック教会を浄化・粛清しようという運動が起こった。11世紀後半には、教皇のもとで教会改革が推し進められ、世俗の支配者による聖職叙任をめぐる教皇と神聖ローマ皇帝が激しく衝突することになった。

(1)修道院改革の中心となったフランスの修道院の名を記せ。

(2)神聖ローマ皇帝が、聖職叙任権を手放そうとしなかった最も大きな理由は何か。2行以内で記せ。

(3)聖職叙任をめぐる衝突した教皇と神聖ローマ皇帝の名を記せ。

解答例

(1)クリュニー修道院

(2)帝国教会制度を取り、皇帝が叙任した司教や修道院長によって、皇帝に対抗する大諸侯を抑制する統治政策を行っていたため。

(3)教皇グレゴリウス7世 皇帝ハインリヒ4世☒☒

スーフィズム

ヨーロッパやアジアでは、キリスト教やイスラムの改革運動が政治や社会の動向に大きな影響を及ぼしてきた。これらの運動に関する以下の(A)~(C)の文章を読み、設問(1)~(7)に答えよ。設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(7)の番号を付して記せ。

(B) 西アジアでは、アッバース朝時代になると、イスラム諸学を身につけた知識人(ウラマー)は、コーランや伝承にもとづいて教義や儀礼を整え、神学や法学の高度な発達をもたらした。しかし都市や農村の民衆にとって、知識人が説く教義や儀礼はあまりにも形式的であり、しかも難解にすぎた。神(アッラー)はもっと身近に感じられるはずである、というのが彼らの偽らざる心境であった。

問(4) このような気運に促されて10世紀以降に流行したイスラム世界の宗教運動の名前を記せ。

問(5) また、その運動がのちに果たした役割を2行以内で説明せよ。

解答例

(4)スーフィズム

(5)教団を組織し、スーフィー聖者の奇跡の力を背景にアフリカ・インド・東南アジアなどへのイスラム教拡大に貢献した。(54字)

東京大学 1997 2 1

問題 古代

欧州

古代ギリシア

世界の海洋の歴史に関する以下の(A)～(C)を読み、設問(1)～(6)に答えよ。設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(6)の番号を付して記せ。

ギリシア人のオリエントとの交流は、紀元前8世紀にはいるといちだんと盛んになっていった。他方で、南イタリア、ナポリ湾の小島で出土した陶製杯には、ホメロスの叙事詩にちなむ韻文がギリシア文字で書かれていた。杯の製作年代は前8世紀後半で、文字も同時期に刻まれたものらしい。

杯がこの島で用いられるにいたった歴史的背景を、下線部に注意しながら5行以内で記せ。

解答例

前8世紀にポリスを形成したギリシア人は、8世紀半ばには黒海沿岸や南イタリアなど地中海沿岸に植民市を建設し、海上交易を積極的に行うことでオリエントとの交流を深め、フェニキア文字をもとにギリシア文字を作成した。このギリシア文字は商業活動で用いられるとともに、ホメロスの叙事詩など文学の成立をうながした。(149字)

東京大学 1997 2 2

問題 中世

西アジア

イスラームの盛衰

ペルシア湾と紅海は、インド洋世界と西方世界を結ぶ海上交通路として、古くから競合関係にあった。ところで、10世紀後半にイスラム世界に起こった変革の影響を受けて、それ以降は、従来栄えていたペルシア湾ルートに代わって、紅海ルートの方がよく利用されるようになった。またそれとともに、ペルシア湾沿岸のムスリム商人が、アラビア半島南岸やアフリカ東岸に移住することも起こった。

設問(2)ペルシア湾ルートに代わって紅海ルートが栄えるようになった歴史的要因を、3行以内(90字)で説明せよ。

解答例

ファーティマ朝がエジプトを征服し、新都カイロを建設して台頭したのに対し、アッバース朝の都バグダードがブワイフ朝に占領され混乱すると、貿易の中心はバグダードからカイロに移った。(87字)

マラッカ王国

モンゴル帝国がユーラシア大陸を支配していた13-14世紀は、東シナ海から地中海に至る海上交易が飛躍的に発展した時代でもあった。その後、明の永楽帝は勘合貿易を推進し、数回にわたって大艦隊を東南アジア諸国、インド、西アジア、東アフリカに派遣して、豊かな海上交易路を把握しようとした。

設問(5) この艦隊を率いたムスリムの名を記せ

設問(6) この艦隊は、マレー半島のある海港都市を拠点とした。この海港都市は、当時成立したばかりのある国家の中心地であったが、その後長い間、中国、東南アジア、インドを結ぶ海上交易の拠点として繁栄した。14世紀末から16世紀前半までのこの海港都市の変遷を3行以内で記せ。

解答例

14世紀末にアユタヤ朝から自立すると、鄭和の遠征に基地を提供し明との朝貢貿易で栄えた。ついでイスラーム教に改宗して香辛料貿易でも栄えたが、16世紀初めにポルトガルに滅ぼされた。(87字)

スペインの新大陸支配

世界史における異文化の出会いについて、下記のA・Bを読み、設問(1)～(6)に答えよ。設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(6)の符号を付して記せ。

A.コロンブスは1492年にカリブ海に到達した。これがいわゆる「新大陸の発見」であるが、先住民の側からすれば、それはヨーロッパあるいはキリスト教文明の「発見」でもあった。次の文章は、コロンブスの航海を後援していたスペイン王室に向けて、彼が書き残した日誌の一部である。

奥地には王が居て、連れてきた男が手真似でいうところによれば、王はこの近辺の島々を領有しており、衣服をまとい、その自らの身体にたくさんの黄金を身につけているということであります。それで夜が明けたなら、集落の見つかるころまで行って、その王に会うなり、話をするなりしたいと考えております。彼らは利口なよい使用人になるに違いありません。彼らはどんな宗教も持っていないようなのであります。神の思し召しにかなうなら、この地を出発するときには、言葉を覚えさせるために、六人の者を陛下のもとへ連れていこうと考えております。

両陛下は、短期間に多数の民を我らの聖なる教えに改宗させることができましようし、広大な領土と、富と、これらすべての民を、スペインのものにしてしまうことができるものと考えます。と申しますのも、この地に莫大な量の黄金が産することは疑いもないことだからであります。

設問(1)下線部の「両陛下」とは具体的に誰と誰のことを指しているのか。その人名を記せ。

設問(2)この航海に見られるコロンブスの先住民へのまなざしの中に、新大陸にくり広げられたその後の悲劇がすでに暗示されている。この悲劇の実例として、16世紀前半にスペイン人が行ったことについて、3行以内で説明せよ。

解答例

古代アメリカ文明を征服し、入植者に土地と住民を委託するエンコミエンダ制によって先住民を酷使し、疫病の流行と相まって人口を激減させた。キリスト教の強制によって先住民文化を破壊した。(89字)

典礼問題

世界史における異文化の出会いについて、下記のA・Bを読み、設問(1)～(6)に答えよ。設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(6)の符号を付して記せ。

B.中国の明朝末期から清朝の初期には、ローマ=カトリックの東アジアへの布教が盛んに行われた。次の文章は、ローマ教皇クレメンス11世が中国に派遣した特使に対して、清の康熙帝が与えた指示の一部である。

近来西洋から来る者ははなはだ雑多である。いま特使が来たのを機会に、一定の規定をさだめなかつたらば、将来誤解を生じ、教皇をもまきこむことになるのを恐れる。以後西洋から来る者は二度と西洋に帰らない者にかぎって内地に居住することを許すべきである。さらに、面倒なる事件を起こしたり、商人でありながら商業を妨げたりする者たちは、居留させるわけにはいかない。各国のそれぞれの修道会の人みなひとしく天主を敬っているのに、どうして議論が分かれるのであろうか。一同ともに居住して永く争うことのないようにせよ。（『康熙与羅馬使節関係文書』より）

設問(5)上の文章からうかがわれるさまざまな紛争のうち、布教をめぐる発生した紛争について、それ以後なにが問題となり、また清の政府はどのように対応したか、3行以内で説明せよ。

解答例

孔子礼拝や祖先祭祀など典礼を容認するイエズス会と否認する他派が対立し、教皇が典礼容認を禁じた。そのため康熙帝はイエズス会以外の布教を禁止し、雍正帝はキリスト教布教を禁止した。（87字）

清朝と東トルキスタン

アジアでは、国家と地域の関係には時代によってさまざまな形があった。地域支配のあり方に関連する、以下の設問(A)～(C)に答えよ。解答は設問ごとに行を改め、冒頭に(A)～(C)の符号を付して記せ。

(A) 18世紀中期以降の東トルキスタンは、モンゴル・チベットなどとともに、清朝の間接的統治を受けていた。これらの地域を統括していた中央官庁の名称を記せ。次に改行して、当時の東トルキスタンの民族的・宗教的特徴、およびこの地域が清朝統治下に入った事情を、90字以内で記せ。

解答例

理藩院

タリム盆地ではトルコ系イスラーム教徒が中心で。天山山脈北方ではモンゴル系のチベット仏教徒も存在した。この地を支配したジュンガル部が乾隆帝によって征服されたことで清朝統治下に入った。（89字）

東京大学 1995 2 B

問題 近代

東アジア

朝鮮・琉球と日本の関係変化

アジアでは、国家と地域の関係には時代によってさまざまな形があった。地域支配のあり方に関連する、以下の設問(A)~(C)に答えよ。解答は設問ごとに行を改め、冒頭に(A)~(C)の符号を付して記せ。

(B) 東シナ海周辺諸地域は古くから内部でさまざまな関係を結んできたが、1868年に日本が明治新政府を樹立すると、この関係は大きく変動することになる。1870年代に朝鮮および琉球にとって日本との関係が政治的にどのように変動したのか、その内容を、120字以内で記せ。

解答例

冊封体制を背景に朝鮮は日本と対等な隣人関係を、琉球は日中両属関係を結んでいた。しかし明治政府が主権国家体制に基づく外交を求めると、冊封体制を前提に開国を拒否した朝鮮は江華島事件によって日本に不平等条約を強制され、琉球は日本に併合された。

(118字)

東京大学 1995 2 C

問題 近代・現代

南アジア

近現代のベンガル

アジアでは、国家と地域の関係には時代によってさまざまな形があった。地域支配のあり方に関連する、以下の設問(A)~(C)に答えよ。解答は設問ごとに行を改め、冒頭に(A)~(C)の符号を付して記せ。

(C) ベンガル地方はイギリスによるインド植民地支配上の重要地域で、ここではイギリスのインド支配全体の成立と変遷の上で画期となる事柄や事態が生じている。この点に留意して、植民地支配との関係や独立の仕方を中心に、18世紀なかばから1947年までのベンガル地方の歴史を、120字以内で記せ。

解答例

18世紀半ば、イギリスはプラッシーの戦いを機にベンガル地方からインドの植民地化を開始した。20世紀初頭にはベンガル分割令でヒンドゥーとムスリムの分断を図った。その後両者の対立は激化し、1947年ベンガルはインドと東パキスタンに分割された。

東京大学 1994 2 A

問題 近世・近代

欧州

イギリス農業革命

世界史における農村社会の変動について、下記の設問(A)~(C)に答えよ。解答は、設問ごとに行を改め、冒頭に(A)~(C)の符号をつけて記せ。

(A)18世紀イギリスでは、農村社会に大きな変化が起こり、それが工業化にも一定の影響を与えた。この変化について、3行以内で記せ。

解答例

食糧増産のための四輪作法普及を口実とした第二次囲い込みが議会公認で行われ、ヨーマンは土地を奪われ消滅し、農村共同体は地主、大借地農、農場労働者からなる資本主義的農村に再編された。(89字)

東京大学 1994 2 B

問題 近代・現代

欧州

ロシア近代農業改革

世界史における農村社会の変動について、下記の設問(A)~(C)に答えよ。解答は、設問ごとに行を改め、冒頭に(A)~(C)の符号をつけて記せ。

(B)ロシアでは、近代になっても土地問題や農民問題が重要な課題でありつづけた。1860年代はじめから1910年代末までにこの国でとられた代表的な農村社会変革の政策について、150字以内で記せ。

解答例

1861年にはアレクサンドル2世によって農奴解放令が出され、農村共同体のミールに土地の管理が委ねられた。ロシア第一革命後、保守派の首相ストルイピンは、ミールの土地管理を解体し、自営農民を創出しようとした。11月革命で成立した人民委員会は、「土地に関する布告」で農民が地主支配地を没収することを認めた。(147字)

東京大学 1994 2 C

問題 現代

東アジア

大躍進までの中国農村政策

世界史における農村社会の変動について、下記の設問(A)~(C)に答えよ。解答は、設問ごとに行を改め、冒頭に(A)~(C)の符号をつけて記せ。

(C)中華人民共和国の経済政策においても、農民問題は重要な位置を占めている。中華人民共和国成立後1950年代末までの中国の農村経済政策について、3行以内で記せ。

解答例

成立後、地主の土地を没収し、1953年の第一次五カ年計画では農業の集団化を推進した。1958年の第二次五カ年計画では、大躍進政策のもと行政と生産を一体化した人民公社を組織したが失敗した。(89字)

東京大学 1993 2 A

問題 中世

西アジア

宗教的少数派と中央権力の関係

世界史上における宗教的少数派と中央権力の関係について、下記の設問(A)～(C)に答えよ。解答は、設問ごとに行を改め、冒頭に(A)～(C)の符号をつけよ。

(A)イスラム世界における少数派としてシーア派がある。10世紀のイスラム世界で成立したシーア派の王朝名を二つあげよ。つぎに改行して、これら二つの王朝がスンナ派のアッバース朝カリフにどのように対応したかを、それぞれ2行以内で記せ。

解答例

ファーティマ朝とブワイフ朝

アリーの子孫と自称した急進シーア派のファーティマ朝は、アッバース朝のカリフの権威を否定し、カリフを称して対抗した。(58字)

穏健シーア派のブワイフ朝はファーティマ朝と対立し、大アミールと称して統治権を奪う一方、名目的な権威として擁立した。(57字)

東京大学 1993 2 B

問題 近世

欧州

宗教的少数派と中央権力の関係

世界史上における宗教的少数派と中央権力の関係について、下記の設問(A)～(C)に答えよ。解答は、設問ごとに行を改め、冒頭に(A)～(C)の符号をつけよ

(B)16世紀にネーデルラントがスペインに対して反乱を起こした原因の一つに、宗教上の争いがあった。ネーデルラントが反乱を起こしてから、独立を宣言するまでの経過に、宗教上の争いがどのように関係していたかを、5行以内で記せ。

解答例

スペインが新教徒弾圧策をとったため、ネーデルラントのカルヴァン派信徒は、ゴイセンと称して独立戦争の中心となった。しかしスペインがカトリック教徒が多かった南部に懐柔策をとると、南部地域は独立戦争から脱落した。そのため南部の新教徒も北部に移り、北部7州はユトレヒト同盟を結成して戦争を継続した。

東京大学 1993 2 C

問題 近代

東アジア

義和団と清朝との関係

世界史上における宗教的少数派と中央権力の関係について、下記の設問(A)~(C)に答えよ。解答は、設問ごとに行を改め、冒頭に(A)~(C)の符号をつけよ

(C)清朝は義和団事件に際して、列強と交戦し、敗北して北京議定書を結んだ。民間宗教結社の流れをくむ義和団と清朝との関係について、義和団事件の時期を中心に、3行以内で記せ。

解答例

仇教運動で台頭した義和団が、扶清滅洋で外国勢力排斥と清朝支援を唱えて北京に進出し、公使館地域を包囲すると、清朝保守派はこれに共鳴し義和団と結んだ。北京議定書締結後は弾圧に転じた。(89字)

東京大学 1992 2 A

問題 近世

欧州・南アジア

アンボイナ事件の結果

17世紀から19世紀初頭までの間における、世界的な規模での商業上の覇権争いと植民地争奪戦とについて、下記の設問(A)~(D)に答えよ。

17世紀に、オランダとイギリスはアジアにおいても香辛料貿易をめぐる抗争したが、その抗争を示す事件の名称とその事件の結果とを、90字以内で記せ。

解答例

アンボイナ事件。イギリスは東南アジアにおける拠点を失ってこの地域から撤退し、インドの綿布貿易に集中した。これによってオランダが香辛料貿易を独占したが、両国の関係は悪化した。

東京大学 1992 2 B

問題 近世

欧州

航海法の目的と結果

17世紀から19世紀初頭までの間における、世界的な規模での商業上の覇権争いと植民地争奪戦とについて、下記の設問(A)～(D)に答えよ。

1651年にクロムウェルは航海法（航海条例）を公布したが、その航海法の目的と結果とを、90字以内で記せ。

解答例

イギリス本国と植民地の貿易をイギリスが独占してオランダを排除し、その中継貿易に打撃を与えることを目的とした。この結果英蘭戦争も勃発し、オランダの経済覇権後退の要因となった。

東京大学 1992 2 C

問題 近世

欧州

七年戦争の経緯と結果

17世紀から19世紀初頭までの間における、世界的な規模での商業上の覇権争いと植民地争奪戦とについて、下記の設問(A)～(D)に答えよ。

七年戦争の時期に、イギリスとフランスは新大陸およびアジアで植民地をめぐる抗争したが、その抗争の経緯と結果とについて、150字以内で記せ。

解答例

新大陸ではイギリスがフランス・インディアン連合軍に勝利し、パリ条約でケベックを含むカナダとミシシッピ以東のルイジアナを獲得し、フランスは新大陸の領土を失った。インドではイギリス東インド会社軍がプラッシーの戦いでベンガル太守・フランス連合軍に勝利し、ベンガル地方の徴税権を得て植民地支配を開始した。

東京大学 1992 2 D

問題 近世・近代

欧州

大陸封鎖令の目的と結果

17世紀から19世紀初頭までの間における、世界的な規模での商業上の覇権争いと植民地争奪戦とについて、下記の設問(A)～(D)に答えよ。

(D)1806年にナポレオン1世は大陸封鎖令（ベルリン勅令）を發布したが、その大陸封鎖令の目的と結果とを、90字以内で記せ。

解答例

イギリス産業から市場を奪い経済的打撃を与える一方で、市場確保によるフランス産業の育成を狙ったが、イギリスの逆封鎖や穀物輸出国の対英市場消失で不況となり、諸国の反仏感情が高まった。（89字）

東京大学 1991 2 A

問題 古代

東アジア

春秋戦国時代の開墾

中国史上の移住に関する以下(A)～(D)の文章を読み、おのおのの文章に対応する設問に答えよ。

(A)殷・周から春秋戦国時代の半ばまで、黄河の中流域を本拠とする漢族の支配域のなかにも、またその周辺にも、多くの少数民族が住んでいた。

設問

春秋時代の半ばから戦国時代にかけて、漢族の有力な諸侯の国々はこうした少数民族をしだいに征服・同化し、広域国家をつくり上げていった。この時期の漢族の拡大に関する技術上ならびに経済上の主要な変化を、90字以内で述べよ。

解答例

A鉄製農具と牛耕普及で農業の生産性が向上し、家族単位の農業が可能となった。諸侯は富国策をとって大規模な灌漑事業や周辺地域の征服を進め、新開地への家族単位での農民の移住を促した。（88字）

東京大学 1991 2 B

問題 古代・中世・近世

東アジア

中国史上の移住

中国史上の移住に関する以下(A)～(D)の文章を読み、おのおのの文章に対応する設問に答えよ。

(B) 秦漢の統一から三国、魏晋南北朝にかけて、政府がすすめた移住や開墾、あるいは遊牧民の侵入からの避難などにより各地方で移住が活発になり、しだいに空白地が埋められて中国本土の地理的一体性と文化的同質性が促進された。

〔設問〕

華北においては、三国時代から北朝の時代にかけて、政府が開墾定住をうながすとともに、豪族の大土地所有をおさえる目的でおこなった三つの制度名が知られている。それぞれにつき実施した王朝名および制度名を時代順に挙げよ。

解答例

魏の屯田制、晋の占田・課田法、北魏の均田制

東京大学 1991 2 C

問題 中世

東アジア

宋代の江南の発展

中国史上の移住に関する以下(A)～(D)の文章を読み、おのおのの文章に対応する設問に答えよ。

(C)唐の半ばから、政情の不安を避け、より安定した生活を求めて、中国の北方から南方に向けて大量の移民が生じ、宋代には南方の人口は北方のそれをこえるようになった。

〔設問〕

南方での人口増加に関係の深い技術上ならびに経済上の変化を、90字以内で述べよ。

解答例

田植えが普及し、日照りに強い早稲種の占城稲が導入された。囲田の干拓が進み二毛作も行われ始めた。この結果、黄河流域にかわって長江下流の江南地方が中心的な穀倉地帯となった。

東京大学 1991 2 D

問題 近世

東アジア

会館公所

中国史上の移住に関する以下(A)～(D)の文章を読み、おのおのの文章に対応する設問に答えよ。

(D)明の半ばから清代にかけて、経済が大いに発達した。農業移民がさかんになったほか、遠隔地を遍歴する商人集団がおこり、また海外に進出する華僑が多くなった。

〔設問〕

国内諸都市や華僑居留地で、会館や公所と呼ばれる組織が発達した。この組織の特色と役割を、90字以内で述べよ。

解答例

同業者または同郷者の利用する宿泊施設で、主要都市に設置された。相互の連絡や祭祀の場であり、相互扶助・共栄を目的とした。また、取引の店舗、科挙受験生の寄宿舍としての役割も果たした。(89字)

東京大学 1990 2 A

問題 中世・近世

東アジア

高麗と李朝

14世紀末の朝鮮半島では、高麗王朝が減んで新王朝が興り、およそ1世紀間のうちに最盛期を迎えた。この新王朝の名を挙げ、当時の思想・文化上の特徴につき、高麗王朝のそれらとの比較をも念頭において、具体的に4行以内で説明せよ。

解答例

李朝朝鮮は明との冊封関係を体制の基盤とし、明より導入した朱子学が高麗の仏教に代わって官学となった。民衆の文字として訓民正音が作成され、庶民文化も発達した。高麗以来の金属活字による印刷も行われ、磁器では高麗青磁に対し李朝白磁が作製された。

東京大学 1990 2 B

問題 中世・近世

南アジア

ムガル帝国期のインド

15・16世紀のインドでは、宗教・思想の面で色々の新しい重要な展開がみられた。その状況につき、知るところを4行以内で記せ。

解答例

スーフイズムが民衆の間に浸透し、イスラム教への改宗者が増加する一方、ヒンドゥー教でもバクティ運動が盛んとなった。宗教詩人カビールは両者の同一を説き、その影響を受けたナーナクは、一神教的なシク教を創始して偶像崇拜やカースト制度を否定した。

東京大学 1990 2 C

問題 近世

西アジア

オスマン帝国

オスマン帝国は16世紀に最盛期を迎えるが、この時期の軍事制度の特徴、ならびに領内の非イスラーム教徒への対応について4行以内で説明せよ。

解答例

キリスト教の子弟から優秀な人材を強制徴用するデウシルメ制に基づき、スルタン直属の常備歩兵軍イエニチェリを整備し、ティマール制によりトルコ人騎兵に軍役義務を課した。領内の非イスラーム教徒にはミット制を施行し、宗派ごとの自治を承認した。

東京大学 1989 2 A

問題 古代

東アジア

法顕と玄奘の事績

(注, 1行30字)

(A) パミール高原の難所をこえて、インドに求法の大旅行をした代表的中国人2名をあげ、その事蹟を述べよ。

解答例

法顕と玄奘。法顕はグプタ朝期に訪れ、帰国後東晋で仏典を漢訳し『仏国記』を著した。唐の玄奘はヴァルダナ朝期に訪れ、ナーランダ僧院に留学し、帰国後仏典を漢訳し『大唐西域記』を著した。(89字)

東京大学 1989 2 B

問題 中世

中央アジア

ガズナ朝とイスラーム

内陸アジアの高原地帯に位置するアフガニスタンは、今日にいたるまで複雑な国際関係の華中におかれてきた。この地方について、下記の設問(A)~(D)に答えよ。解答は冒頭に(A)~(D)の符号を付して、それぞれに3行以内で記せ。(注、1行30字)

(B) 今日アフガニスタンの住民の大部分が信仰している宗教が、この地方に普及する契機となった王朝の名をあげ、それについて知るところを述べよ。

解答例

ガズナ朝。10世紀にサーマーン朝のマムルークが建てたイスラーム王朝で、ペルシア文芸を保護した。北インドに侵入してイスラーム化させる端緒を作ったが、12世紀にゴール朝が滅ぼした。(88字)

東京大学 1989 2 C

問題 近代

南アジア・中央アジア

イギリスのインド支配とアフガニスタン

内陸アジアの高原地帯に位置するアフガニスタンは、今日にいたるまで複雑な国際関係の華中におかれてきた。この地方について、下記の設問(A)~(D)に答えよ。解答は冒頭に(A)~(D)の符号を付して、それぞれに3行以内で記せ。(注、1行30字)

(C) インドからイランにいたる地域の諸王朝の領域は、元来、固定的なものではなかった。しかし、こうした状況はイギリスのインド支配にともなって変化し、アフガニスタンの領域とその国際的地位は確定されていった。この過程について述べよ。

解答例

ロシアの中央アジア南下をインド支配への脅威と認識したイギリスは、アフガニスタンを緩衝地域とするためアフガン戦争で保護国とし、ロシアに対して1907年の英露協商で勢力圏と認めさせた。

(88字)

東京大学 1989 2 D

問題 現代

南アジア

アフガニスタンの独立

内陸アジアの高原地帯に位置するアフガニスタンは、今日にいたるまで複雑な国際関係の華中におかれてきた。この地方について、下記の設問(A)～(D)に答えよ。解答は冒頭に(A)～(D)の符号を付して、それぞれに3行以内で記せ。(注、1行30字)

(D) 1919年にアフガニスタンは独立した。そのさいアフガニスタンの独立国家としての存立を助けるような新しい国際環境が生まれていた。その国際環境について述べよ。

解答例

ソヴィエトの平和に関する布告やウィルソンの十四カ条によって民族自決の思想が広く支持されていた。一方でイギリスは第一次世界大戦で国力を消耗し、中東やインドで抵抗運動に直面していた。(89字)

東京大学 2007 3 10

問題 現代

東アジア

1990年代初のモンゴルの変化

中国で辛亥革命が起こると、外モンゴルでは中国からの独立を目指す運動が進み、その後ソ連の援助を得て、社会主義のモンゴル人民共和国が成立した。ソ連崩壊前後のこの国の政治・経済的な変化について、1行(30字)以内で説明しなさい。

解答例

政治では自由主義体制へ、経済では資本主義体制へ転換した。(28字)

東京大学 2000 3 3

問題 古代

欧州

ニケーア公会議

地中海をとりまく地域を地中海世界とよべば、そこは古代オリエントの神々、そしてギリシア・ローマの神々の世界だった。そこから神は唯一であることを主張するユダヤ教が生まれ、やがてキリスト教・イスラム教という一神教が発展する。次ページの地図の①から④は地中海世界の宗教に関連する都市を示す。これらの都市に関する以下の設問(1)～(10)に答えよ。

問(3) ⑩の地で325年に開かれた公会議で決定したことを2行以内(60字)で答えよ。

解答例

イエスに人性と神性を認めるアタナシウス派が正統とされ、イエスを神の被造物とするアリウス派が異端とされた。(52字)

東京大学 2000 3 5

問題 古代・中世

欧州

キリスト教会の分裂

地中海をとりまく地域を地中海世界とよべば、そこは古代オリエントの神々、そしてギリシア・ローマの神々の世界だった。そこから神は唯一であることを主張するユダヤ教が生まれ、やがてキリスト教・イスラム教という一神教が発展する。次ページの地図の①から④は地中海世界の宗教に関連する都市を示す。これらの都市に関する以下の設問(1)～(10)に答えよ。

問(5) ⑪は東ヨーロッパに広がったキリスト教のある教会の中心だった。この教会とローマ・カトリック教会の分裂の経緯について2行以内で記せ。

解答例

726年の聖像崇拜禁止令を機に対立が激化し、地方教会の支配と布教をめぐって争い、1054年に相互破門して分裂した。(57字)

東京大学 1999 3 3

問題 近代

西アジア

タンジマートの影響

オスマン帝国は、19世紀なかば、西欧化の改革であるタンジマートを実施して、旧来のイスラーム国家から法治主義にもとづく近代国家への移行を目指した。タンジマートはどのような結果をもたらしたか。2行以内(60字)で説明せよ。

解答例

ミドハト憲法の制定につながったが、西欧諸国への経済的従属が進み、改革の財源を借款によったため、財政の破綻をもたらした。

東京大学 1999 3 8

問題 現代

北米

ドル危機

第二次世界大戦末、連合国はブレトン＝ウッズで戦後の国際経済再建構想を協議し、ドルを機軸とする二つの国際経済・金融組織の設立に合意した。

(a)この二つの組織の名称を記せ。

(b)国際通貨としてのドルの地位は、1960年代末から1970年代初めにかけて大きく動揺する。その背景について2行以内(60字)で説明せよ。

解答例

(a)国際通貨基金、世界銀行

(b)ベトナム戦争の戦費などで合衆国の財政は悪化し、日本や西ドイツ工業の発展で国際収支も赤字となり、金の流出が続いた。(56字)

明初の貿易の拡大

(A)中国の伝統的な対外貿易は、中華思想にもとづいて、他国に対する恩恵とされ、国家の統制のもとにおかれていた。

設問 明代初期には、日本との貿易もふくめて、海上貿易が一段と進展した。その事情について、以下の三つの用語をすべて使って、60字以内で記せ。

鄭和 勘合貿易 倭寇

解答例

洪武帝は私貿易を禁止した。永楽帝は鄭和を派遣して南海諸国の朝貢を促し、倭寇取り締まりを条件に日本と勘合貿易を行った。(58字)